3　環境分野

(1)　自然環境

年平均気温（2019 年、青森市）	11.4℃	平均値 10.4℃
年降水量（　　〃　　）	1,093.0 ㎜	平年値 1,300.1 ㎜
自然公園内観光地点の観光入込数（2018 年）	7,699,376 人	前年比 41,572 人減
白神山地入込者数（2018 年）	300,884 人	前年比 3,131 人減
民有林造林実績（2018 年）	379ha	前年度比 79ha 減
		資料：気象庁観測データ、県環境生活部ほか

①　県土の概要

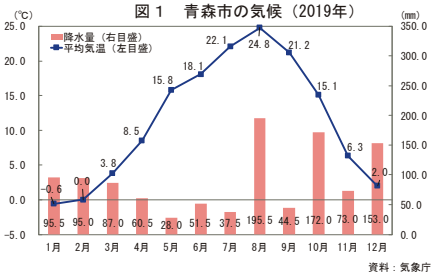
本県の総面積は、約 96 万 4,500ha であり国土の 2.6%を占め、全国第８位の大きさである。三方を海に囲まれ、内湾である陸奥湾があり、海岸線総延長は約 800km に及ぶ。本県の全体の約 65.6%が森林で、南西部に位置し、ブナ天然林の分布する広大な白神山地や、中央部に位置する八甲田連峰、十和田湖・奥入瀬渓流など、水と緑に囲まれた自然あふれる環境に恵まれている。

②　気候

本県は、三方向が海に面していることによる海流の影響と、奥羽山脈が県内を二分している地形の影響などから、県内でも地域によって気候が大きく異なる。

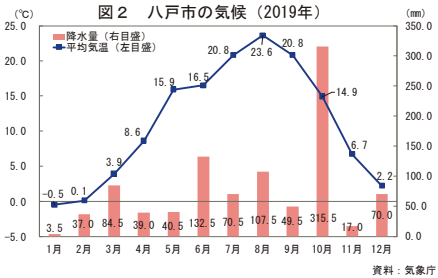
夏季は、太平洋側で、冷たく湿った偏東風である「ヤマセ」の影響で、低温・多湿の日が多くなる。冬季は、日本海側では大雪となり、太平洋側は乾燥した晴天の日が多くなり、奥羽山脈を境として、太平洋側のヤマセの影響と、日本海側の大雪が、本県の気候の特徴となっている。**(図１、図２)**

図１　青森市の気候（2019年）



資料：気象庁

図２　八戸市の気候（2019年）



資料：気象庁

③　大気環境

2018 年度における本県の大気環境は、環境基準が定められている物質のうち、光化学オキシダント（６地点）及び微小粒子状物質（１地点）を除いて環境基準を達成している。光化学オキシダントについては、全国的に環境基準を超過しており、成層圏オゾンの沈降による影響のほか、大陸からの越境汚染の影響などが原因として考えられている。

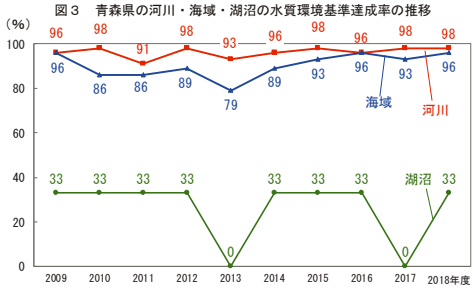
④　水環境

2018 年度調査の結果、河川では、有機性汚濁の代表的指標であるＢＯＤ(生物化学的酸素要求量)が、類型指定されている 56 水域のうち 55 水域で環境基準を達成し、達成率は 98%であった。

海域では同じく代表的指標であるＣＯＤ(化学的酸素要求量)が、類型指定されている 28 水域のうち 27 水域で環境基準を達成し、達成率は 96%であった。

湖沼のＣＯＤについては、類型指定されている３水域（小川原湖、十和田湖、浅瀬石川ダム貯水池）のうち、浅瀬石川ダム貯水池で環境基準を達成し、達成率は 33%であった。**（図３）**

図３　青森県の河川・海域・湖沼の水質環境基準達成率の推移

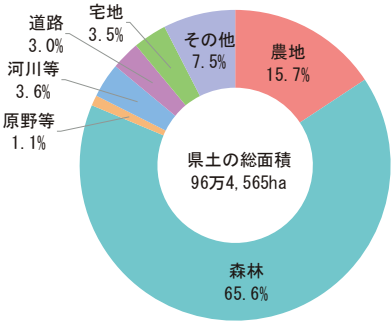


資料：県環境生活部「環境白書」

⑤　土地利用の状況

県土を土地利用区分別に見ると、森林が 65.6%と最も大きな割合を占め、次いで農地 15.7%、水面・河川・水路 3.6%、宅地 3.5%、道路 3.0%などとなっている。**（図４）**

図４　土地利用の状況（2018年10月1日現在）



資料：県県土整備部「青森県の土地利用」

⑥　自然公園の状況

2019 年３月 31 日現在、国立公園２か所、国定公園２か所、県立自然公園７か所が指定されており、面積は県土面積の 11.6%を占めている。

2018 年の自然公園内における観光地点(全 108 地点)の入込客数は 769 万 9,376 人（対前年 0.5%減）となっている。**(表５)**

表５　自然公園の概要

種別	名　称	関係市町村	面積（ha）	観光入込客数（千人、%）				
				観光地点数	2016	2017	2018年	前年比
国立公園	十和田八幡平（十和田・八甲田地域）	青森市、黒石市、十和田市、平川市	38,358	10	2,070	2,209	2,232	101.0
	三陸復興（種差海岸・階上岳地域）	八戸市、階上町	2,423	9	558	474	490	103.4
国定公園	下北半島	むつ市、大間町、東通村、佐井村	18,641	12	767	720	657	91.3
	津軽	弘前市、五所川原市、つがる市、今別町、外ヶ浜町、鰺ヶ沢町、深浦町、中泊町	25,966	38	2,146	2,083	2,107	101.2
県立自然公園	浅虫夏泊	青森市、平内町	4,964	10	963	1,002	1,008	100.6
	大鰐碇ヶ関温泉郷	平川市、大鰐町	6,730	5	101	108	103	94.8
	名久井岳	三戸町、南部町	1,076	3	122	126	116	91.8
	芦野池沼群	五所川原市、中泊町	612	—	—	—	—	—
	黒石温泉郷	黒石市、平川市	5,100	7	430	393	385	98.0
	岩木高原	弘前市	2,587	8	592	547	532	97.2
	津軽白神	鰺ヶ沢町、西目屋村	5,341	6	66	78	69	88.6
	小計		26,410	39	2,275	2,255	2,213	98.1
合　計			111,798	108	7,816	7,741	7,699	99.5

※表示単位未満の端数を四捨五入したことにより、一部計算が不一致。

資料：県環境生活部、県観光国際戦略局「平成29年青森県観光入込客統計」

⑦　世界自然遺産白神山地の状況

白神山地は、青森県南西部から秋田県北西部にまたがる 130,000ha に及ぶ広大な山地帯の総称である。このうち、原生的なブナ林で占められている区域 16,971ha が 1993 年 12 月に世界遺産として登録されており、青森県側の面積は、その約４分の３を占め、12,627ha となっている。

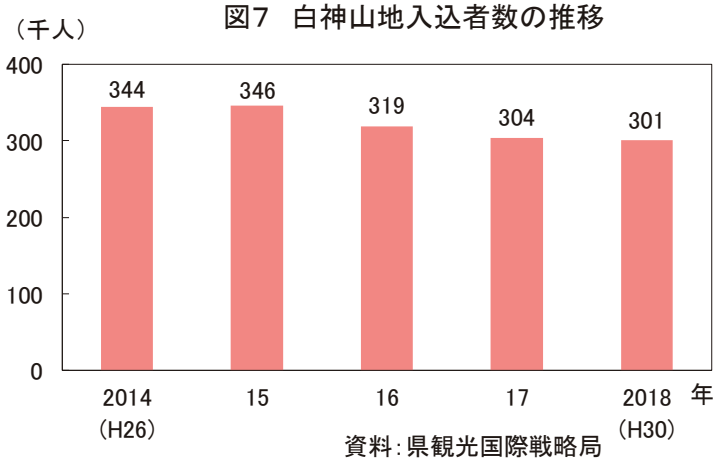
白神山地には、赤石川、追良瀬川、笹内川などの河川があり、各河川の流域を分ける尾根沿いに、白神岳（1,232m）、向白神岳（1,243m）、魔須賀岳（標高 1,012m）、天狗岳（958m）など、標高 1,000m から 1,200m 級の山々が連なっている。**(図６)**

図６　白神山地の概要図

白神山地の特徴は、人為の影響をほとんど受けていない原生的なブナ天然林が東アジア最大級の規模で分布していることにある。ブナ天然林には、ブナーミズナラ群落をはじめ多種多様な植物が生育し、水源涵養機能や地表侵食防止機能が高く、多面的な機能を有している。また、高緯度にもかかわらず、ツキノワグマ、ニホンザル、イヌワシ等をはじめ多くの動物が生息し、特に世界遺産地域は、最も良く原生状態が保たれており、その価値は、地球的に見ても極めて重要であると評価されている。

世界自然遺産白神山地の持続可能な利用に向けて、遺産地域周辺における自然を生かしたエコツーリズム等が推進されており、入込者数は近年 30 万人台で推移している。**（図７）**

図7　白神山地入込者数の推移



資料：県観光国際戦略局

⑧　森林の状況

ア　森林の現況

本県の森林面積(2018 年)は、63 万 683ha で県土面積の 65.4%を占めている。そのうち、国有林(官行造林含む)は、39 万 1,858ha で全森林の 62.1%、民有林(公有林含む)は 23 万 8,825ha で 37.9%を占めている。

森林蓄積量は 1 億 2,372 万 3,000 ㎥で、そのうち国有林は 7,264 万 9,000 ㎥(全体の 58.7%)、民有林は 5,107 万 5,000 ㎥(同 41.3%)となっており、針広別では、針葉樹が全体の 64.0%、広葉樹が 36.0%となっている。針葉樹ではスギが最も多く針葉樹全体の 6 割以上を占め、次いでヒバ、アカマツ、カラマツの順となっている。**（次頁表８）**

表８　森林の現況　（2018年）

（単位　ha、千㎥、㎥/ha）

区　分	総　数	国　有　林	民　有　林
森　林　面　積　(ha)	630, 683	391, 858	238, 825
森　林　蓄　積　量　(千㎥)	123, 723	72, 649	51, 075
針　葉　樹　(〃)	79, 191	39, 132	40, 059
ス　ギ　(〃)	49, 543	19, 883	29, 660
ア　カ　マ　ツ　(〃)	9, 052	2, 325	6, 727
ク　ロ　マ　ツ　(〃)	2, 770	865	1, 905
ヒ　バ　(〃)	13, 286	13, 049	236
カ　ラ　マ　ツ　(〃)	3, 891	2, 369	1, 521
そ　の　他　(〃)	650	640	10
広　葉　樹　(〃)	44, 527	33, 511	11, 016
無立木地、除地等　(〃)	5	5	0
１ha当たり蓄積　(㎥/ha)	196	185	214

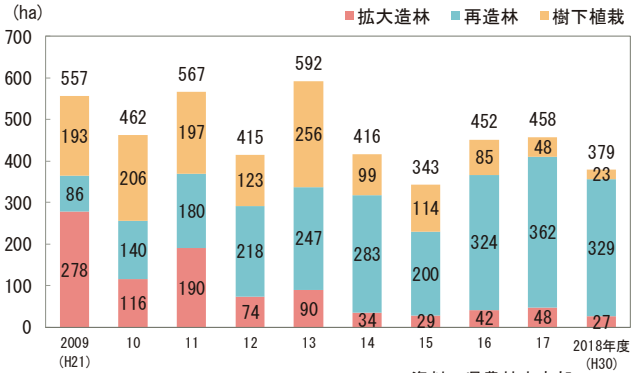
※国有林には官行造林を含む。　　資料：県農林水産部

イ　森林の造成状況の推移

木材価格の長期低迷や、林業諸経費の増大等により、民有林造林面積は 1970 年の 6, 054ha をピークに減少し、近年は 300～500ha 台で推移している。

民有林の再造林は増加傾向にあり、３年連続で 300ha を超えている。（図９）

図９　民有林造林実績の推移



資料：県農林水産部

ウ　企業の森づくりの状況

企業の社会貢献活動の一環として、森林整備（企業の森づくり）の取組が各地で進んでいる。本県においても、企業等が森林整備・保全活動に参加しやすい環境を整備するため､企業等への情報提供や森林所有者との調整などを行っており、これまで、19 の県内企業等と森林づくり協定を締結している。

さらに、2018 年度には、企業等が持つ様々な技術・知識を活用し、森林・林業の魅力発信や担い手の確保・育成など、間接的に将来の安定的な森林整備につながる取組についても対象とし、これまで３企業と協定を締結している。

⑨　有害鳥獣の状況

ツキノワグマの出没件数は増加傾向にあり、特に 2016 年度は過去にないほどの件数となった。ニホンジカは、全国で生息数が増加しており、本県においては、従来生息していないとされていたが、近年目撃が増加傾向にある。**(表 10)**

このほか、ニホンザルや生息域が拡大しているアライグマ等による農作物被害が発生しており、被害拡大が懸念されている。

表10　ツキノワグマ及びニホンジカの目撃・捕獲数

（頭）

獣類	年度	2014	2015	2016	2017	2018年度
ツキノワグマ	出没件数	278	244	498	424	395
	有害捕獲等数	72	85	154	260	152
ニホンジカ	目撃頭数	45	114	160	222	216
	捕獲等数※	19	16	28	52	49

※ロードキル等による死亡個体を含む

資料：県環境生活部

⑩　狩猟免状交付状況

本県では狩猟者の減少と高齢化が続き、狩猟免許の新規取得者も年々減少していたが、狩猟免許制度の普及・啓発等により、2016 年度から新規取得者が 140 名を超えている。**(表 11)**

表11　狩猟免状交付状況

（人）

区分	網	わな	第１種猟銃	第２種猟銃	計（うち新規）
2014	23	230	1,240	16	1,509　(67)
2015	28	257	1,100	15	1,400　(93)
2016	44	324	1,118	18	1,504　(159)
2017	56	370	1,192	16	1,634　(151)
2018年度	74	418	1,122	13	1,627　(145)

資料：県環境生活部

(2)　低炭素・循環

	青森県	（全国順位）	全国
1人1日当たりのごみの排出量（2017年度）	1,002g	（43位）	920g
ごみのリサイクル率（　〃　）	15.0%	（41位）	20.2%
1人1日当たりのごみの最終処分量（　〃　）	107g	（40位）	83g

資料：県環境生活部

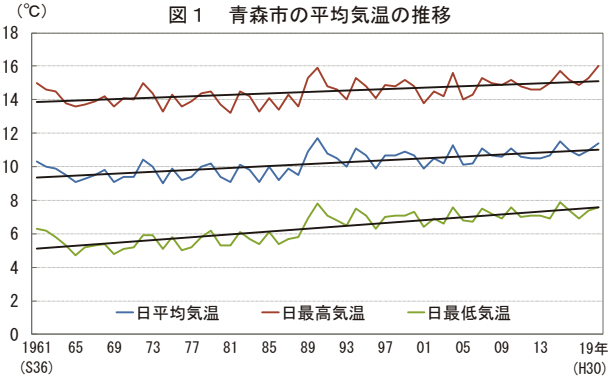
①　地球温暖化対策

ア　本県における影響

仙台管区気象台発行の「東北地方の気候の変化」(2016年12月発行、2019年12月更新）によれば、青森市の年平均気温は100年あたり1.9℃の割合で上昇しているほか、夏日日数は10年あたり3.0日の割合で増加、冬日日数は10年あたり3.6日の割合で減少しており、本県においても、地球温暖化による気候変動が生じている。**(図１)**

地球温暖化は、熱中症や感染症の増加など県民の健康や、リンゴ栽培適地の移動など農林水産業への影響があるほか、本県の貴重な自然資源が失われていく原因にもなる。

図１　青森市の平均気温の推移

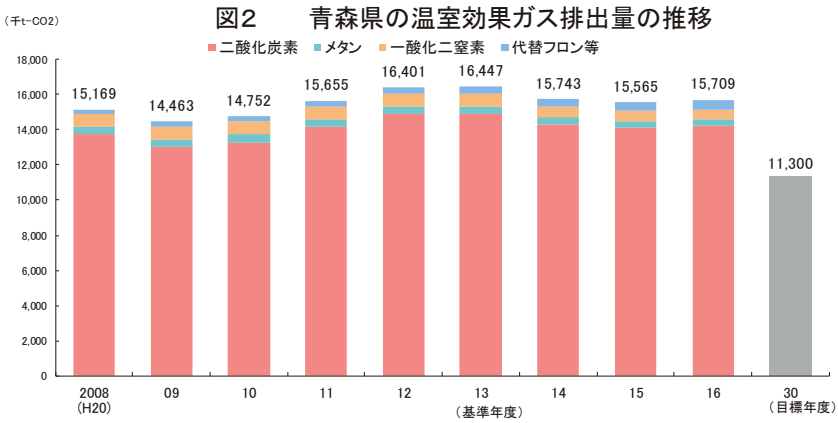


資料：気象庁

イ　本県の温室効果ガス排出量の現況

全国の傾向と同様、2010年度以降は上昇傾向で、2014年度から減少に転じていたが、2016年度は15,709千ｔ-C02と前年度比0.9%の増加となった。また、青森県地球温暖化対策推進計画（改訂版）の基準年度である 2013 年度比では4.5%の減少となっている。

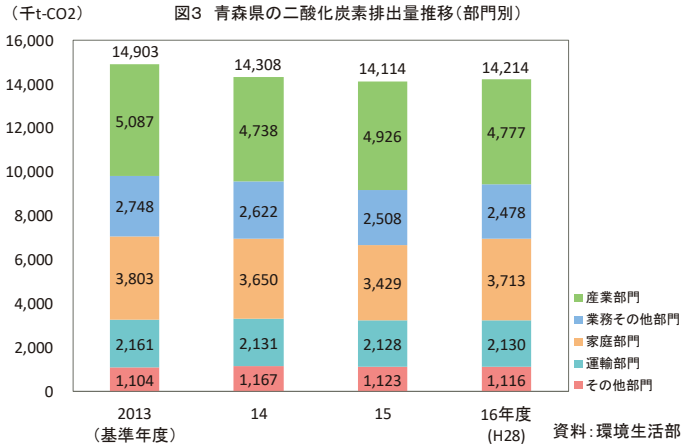
2030年度の目標値達成に向け、引き続き温室効果ガスの排出抑制対策を強化していく必要がある。**(次頁図２)**



資料：県環境生活部「青森県地球温暖化対策推進計画」、「青森県における2016年度（平成28年度）温室効果ガス排出状況について」を基に県企画政策部が作成

温室効果ガス排出量のうち二酸化炭素排出量の推移を見ると 2016 年度は 1,421 万 4 千 t-CO_2 で、計画の基準年度である 2013 年度比で 4.6%減少しているが、前年度比で 0.7%増加している。**（図３）**

前年度と比べて増加した要因としては、産業部門及び業務その他部門でエネルギー消費量が減少等した一方で、家庭部門において電力消費量や灯油消費量が増加したことから、全体として増加となったと考えられる。



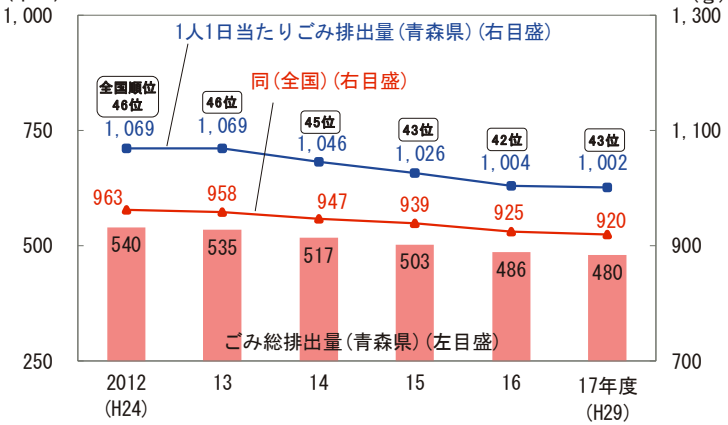
② 廃棄物・リサイクル

ア ごみ（一般廃棄物）の排出量

本県のごみ排出量は、2014 年度から減少しており、2017 年度実績では 47 万 9,621t と前年度と比較して約 1.3%減少している。

県民 1 人 1 日当たりのごみ排出量は 1,002g で、全国値の 920g より 82g 多く、依然として全国値よりも多い状況が続いている。**（図４）**

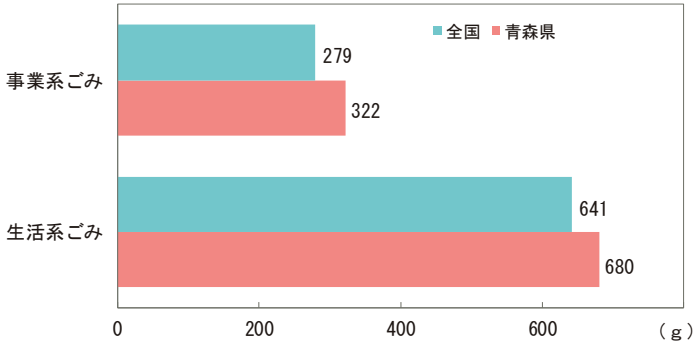
図４ ごみ総排出量と１人１日当たりごみ排出量の推移



資料：県環境生活部「一般廃棄物処理事業実態調査結果について」

１人１日当たりのごみ排出量の内訳をみると、生活系ごみ・事業系ごみのいずれも全国値と比べて多くなっている。**（図５）**

図５ １人１日当たりのごみ排出量の内訳（2017年度）



資料：県環境生活部「一般廃棄物処理事業実態調査結果について」を基に県企画政策部が作成

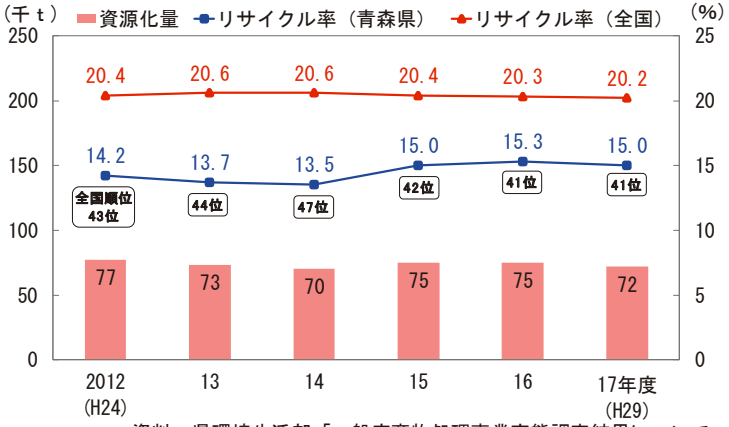
イ　リサイクルの状況

2017 年度の本県のごみの総資源化量は 7 万 2,085t であり、前年度と比較して約 3.8%減少している。

また、リサイクル率は 15.0%で、前年度に比べ 0.3 ポイント低下し、全国値の 20.2%と比べると 5.2 ポイント低く、依然として全国との差は大きい。**（図６）**

なお、上記資源化量に含まれない民間における資源回収量は年々増加しており、民間回収分を含めたリサイクル率は 30.7%と、全体としてのリサイクル率は向上している。

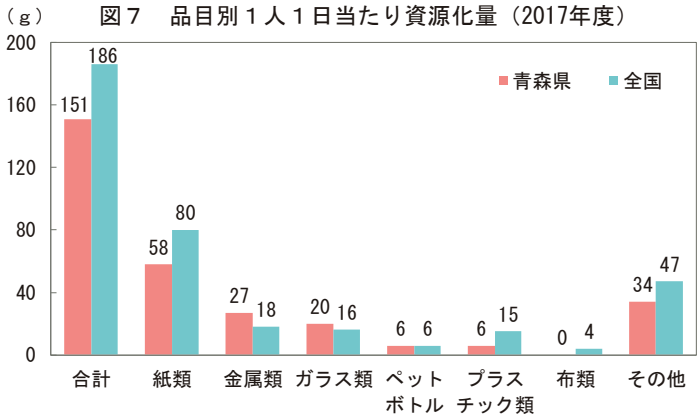
図６　資源化量とリサイクル率の推移



資料：県環境生活部「一般廃棄物処理事業実態調査結果について」

１人１日当たりの種類別の資源化量を全国と比較すると、紙類、プラスチック類について大きな開きがみられる。**（図７）**

図７　品目別１人１日当たり資源化量（2017年度）



資料：県環境生活部「一般廃棄物処理事業実態調査結果について」

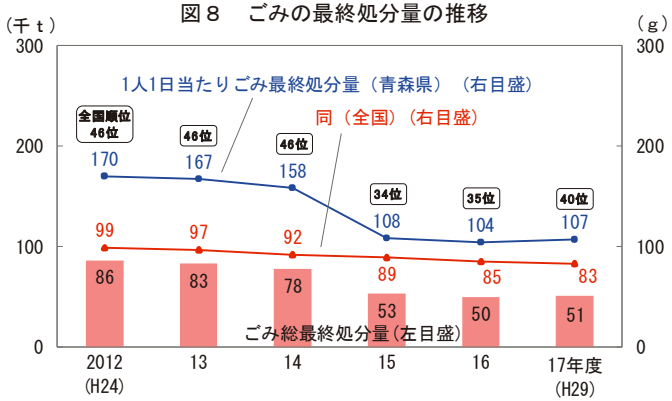
エ　ごみの最終処分量の状況

不燃ごみや、ごみを焼却した後の燃え殻などは最終処分される。

2017 年度における本県のごみ総最終処分量は、5 万 1,432t と前年度と比較して約 2.3%増加している。

県民 1 人 1 日当たりのごみ最終処分量は 107g で、前年度に比べ 3g 増加しており、全国値の 83g と比べて 24g 多く、全国値よりも多い傾向が続いている。**（図８）**

図８　ごみの最終処分量の推移

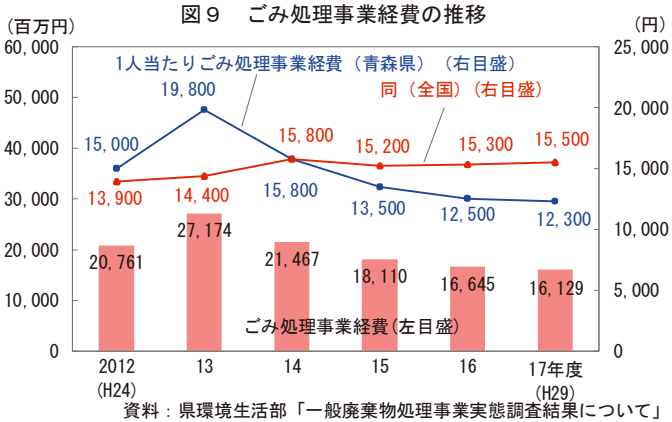


資料：県環境生活部「一般廃棄物処理事業実態調査結果について」

オ　ごみ処理経費

2017 年度における県内市町村（一部事務組合含む。）の一般廃棄物処理事業経費のうち、ごみ処理事業経費は 16,128,508 千円、処理対象人口 1 人当たりでは、ごみ処理経費が約 12,300 円/年となっている。**（図９）**

図９　ごみ処理事業経費の推移

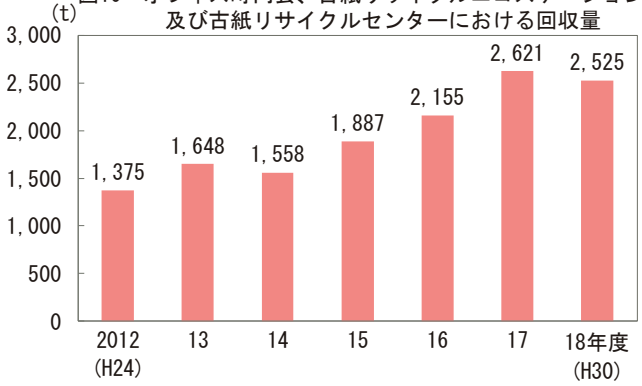


資料：県環境生活部「一般廃棄物処理事業実態調査結果について」

カ　民間事業者等における取組

行政による集団回収のほか、レジ袋の無料配布取りやめ、オフィス町内会の設立、古紙リサイクルエコステーションや古紙リサイクルセンターの設置など、民間事業者等によるごみ削減やリサイクルの取組が進んでいる。**(図 10)**

図10　オフィス町内会、古紙リサイクルエコステーション及び古紙リサイクルセンターにおける回収量



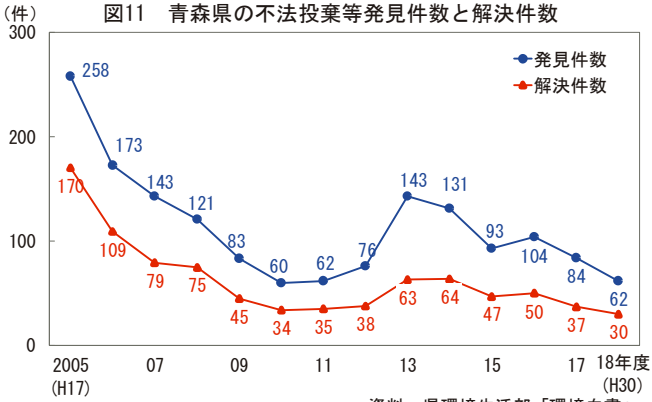
資料：県環境生活部

キ　産業廃棄物の不法投棄等の状況

県内の産業廃棄物の不法投棄等発見件数は近年減少しており、発見件数のうち、発見した年度内に解決された件数は約５割程度で推移している。**(図 11)**

なお、県境不法投棄事案については、植樹や下草刈りなどの「自然再生」、跡地の利活用による「地域の振興」、処理施設等における資料展示やウェブによる「情報発信」の３つの方向性から、跡地の環境再生に向けた施策を展開している。

図11　青森県の不法投棄等発見件数と解決件数



資料：県環境生活部「環境白書」

4　教育・人づくり分野

(1) 教　育

高等学校卒業者（全日制・定時制課程）の大学等進学率（2019 年 3 月卒）
　青森県　46.2%（男　43.7%　　女　48.8%）　全国平均　54.7%
高等学校卒業者（全日制・定時制課程）の就職率（　〃　）
　青森県　31.2%（男　36.2%　　女　26.0%）　全国平均　17.7%
　就職者のうち県内就職割合　54.4%　　県外就職割合　45.6%
※大学等進学率は、大学・短期大学の通信教育部への進学者を含む。

資料:文部科学省「学校基本調査」

①　学校数・在学者数・教員数の推移

少子化に伴い、県内の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の園児・児童・生徒数は年々減少している。なお、2015 年 4 月の制度改正により新設された「幼保連携型認定こども園」については、既存の幼稚園や保育所からの移行が進み、年々増加している。**(表１)**

表１　学校数・在学者数・教員数の推移

（単位：校、人）

区分		2014 (H26)	15	16	17	18	2019年度 (R1)
幼稚園	園　数	119	107	100	94	88	88
	園児数	7,946	6,533	6,013	5,734	5,078	4,877
	教員数	733	655	686	678	619	637
幼保連携型認定こども園	園　数	―	121	158	182	209	233
	園児数	―	10,270	13,438	15,274	17,338	18,828
	教員数	―	1,970	2,558	2,945	3,353	3,748
小学校	学校数	310	302	293	289	287	282
	児童数	64,876	62,719	60,644	59,233	58,394	56,886
	教員数	4,921	4,854	4,770	4,753	4,749	4,677
中学校	学校数	168	166	165	161	162	160
	生徒数	37,540	36,719	35,505	33,921	32,137	31,052
	教員数	3,272	3,262	3,250	3,148	3,068	3,030
高等学校	学校数	82	80	80	78	77	76
	生徒数	39,064	37,967	37,109	36,327	35,350	34,117
	教員数	3,216	3,140	3,121	3,107	3,082	3,039

※　高等学校では全日制、定時制、通信制について記載。併置している学校は1校として計上している。
※　高等学校の生徒数は専攻科を除いている。
※　表中の教員数は本務者のみ計上している。

資料：文部科学省「学校基本調査」

② 県立高等学校の規模等（学科、定員）

表２　2020年度県立高校全日制・定時制・通信制・八戸水産専攻科　募集人員

学校名	学科	募集人員（人）
青森	普通	280
青森西	普通	240
青森東	普通	240
青森北	普通	160
	スポーツ科学	40
青森南	普通	200
	外国語	40
青森中央	総合	200
浪岡	普通	70
青森工業	機械	35
	電子機械	35
	電気	35
	電子	35
	情報技術	35
	建築	35
	都市環境	35
青森商業	商業	160 } 200
	情報処理	40
五所川原	普通	160 } 200
	理数	40
金木	普通	40
木造	総合	160
同深浦校舎	総合	40
鰺ヶ沢	普通	40
板柳	普通	70
鶴田	普通	70
五所川原農林	生物生産	35
	森林科学	35
	環境土木	35
	食品科学	35
五所川原工業	機械	35
	電子機械	35
	電気	35
	情報技術	35
弘前	普通	240
弘前中央	普通	240
弘前南	普通	240
黒石	普通	120
	情報デザイン	40
	看護	40

学校名	学科	募集人員（人）
柏木農業	生物生産	35
	環境工学	35
	食品科学	35
	生活科学	35
弘前工業	機械	35
	電気	35
	電子	35
	情報技術	35
	土木	35
	建築	35
弘前実業	農業経営	40
	商業	80
	情報処理	40
	家庭科学	40
	服飾デザイン	40
	スポーツ科学	40
三本木	普通	240
十和田西	普通	35
	観光	35
三沢	普通	240
野辺地	普通	80
七戸	総合	120
六戸	普通	70
百石	普通	80
	食物調理	40
六ケ所	普通	70
三本木農業	植物科学	35
	動物科学	35
	農業機械	35
	環境土木	35
	農業経済	35
十和田工業	機械・エネルギー	35
	電気	35
	電子	35
	建築	35
三沢商業	商業	80 } 120
	情報処理	40

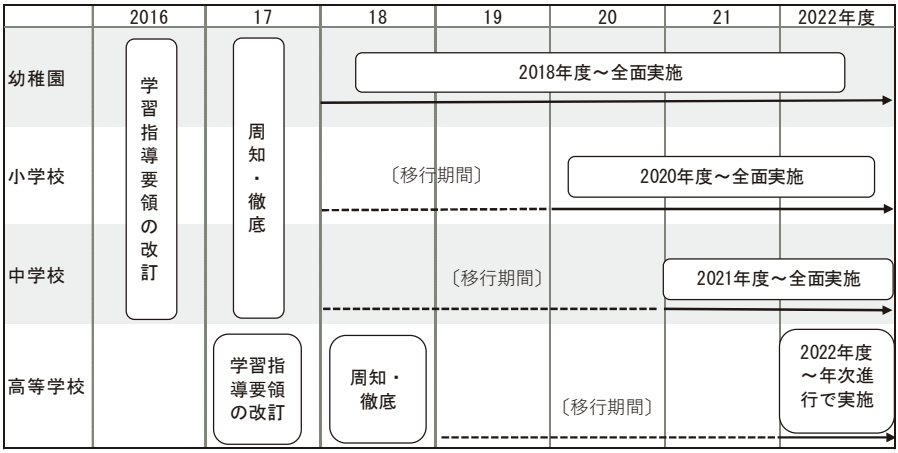
学校名	学科	募集人員（人）
田名部	普通	200
大湊	総合	160
大間	普通	70
むつ工業	機械	35
	電気	35
	設備・エネルギー	35
八戸	普通	240
八戸東	普通	200
	表現	30
八戸北	普通	240
八戸西	普通	200
	スポーツ科学	40
三戸	普通	70
名久井農業	生物生産	35
	環境システム	35
八戸水産	海洋生産	35
	水産食品	35
	水産工学	35
八戸工業	機械	35
	電子機械	35
	電気	35
	電子	35
	情報技術	35
	土木建築 土木コース	20
	土木建築 建築コース	15
	材料技術	35
八戸商業	商業	80
	情報処理	40
県立全日制計		7,905
北斗	普通（午前）	40
	普通（午後）	40
	普通（夜間）	40
青森工業	工業技術（夜間）	40
五所川原	普通（夜間）	40
尾上総合	総合（I部）	40 } 80
	総合（II部）	40
	総合（III部）	40
弘前工業	工業技術（夜間）	40
三沢	普通（夜間）	40
田名部	普通（夜間）	40
八戸中央	普通（午前）	40
	普通（午後）	40
	普通（夜間）	40
八戸工業	工業技術（夜間）	40
県立定時制計		600
北斗	普通	200
尾上総合	普通	150
八戸中央	普通	150
県立通信制計		500
八戸水産	漁業	10
	機関	10
八戸水産専攻科計		20

資料：県教育庁

③　新学習指導要領の導入スケジュール

学習指導要領が改訂され、外国語教育の充実・強化や情報活用能力の育成に向けて、小学校における中学年の外国語活動や高学年の外国語科の導入、プログラミング教育の必修化、ＩＣＴを活用した学習活動の充実などへ対応するための取組を進めている。

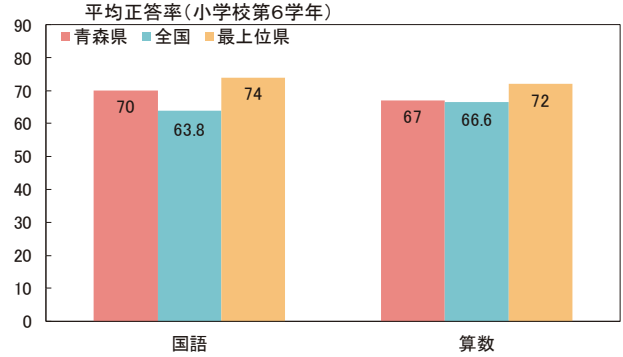
文部科学省の示す今後の学習指導要領改訂に関するスケジュール



④　全国学力・学習状況調査に見る本県の児童生徒の学力

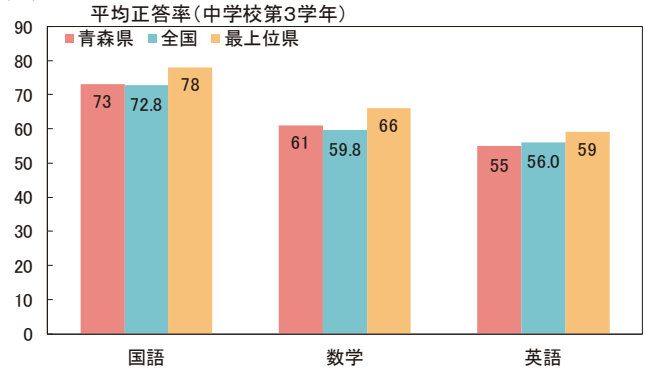
2019 年度における本県公立小・中学校の児童生徒の学力は、教科に関する調査（対象：小学校第 6 学年及び中学校第 3 学年）の平均正答率を比較すると、小学校は国語が全国の平均正答率を上回り、算数は全国の平均正答率と同程度であり、中学校は国語、数学及び英語の全てで平均正答率が全国平均と同程度となっている。**（図３、次頁図４）**

図3　平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査における平均正答率（小学校第6学年）



資料：国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査」

図4　平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査における平均正答率（中学校第3学年）

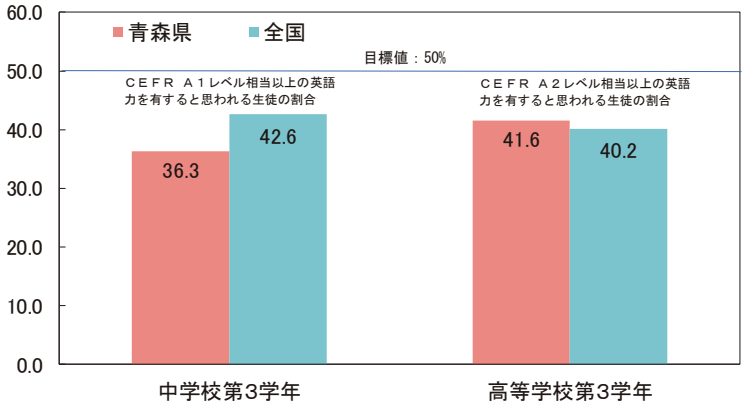


資料：国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査」

⑤　本県の生徒の英語力の状況

本県の中学校第３学年に属する生徒のうち、CEFR　A1 レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合は全国平均より低くなっている。高等学校第３学年に属する生徒のうち、CEFR　A2 レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合は全国平均より高いが、国の掲げる目標値（50%）には達していない。（図５）

図5　生徒の英語力の状況（中学校・高等学校）



資料：文部科学省　2018（平成30）年度英語教育実施状況調査

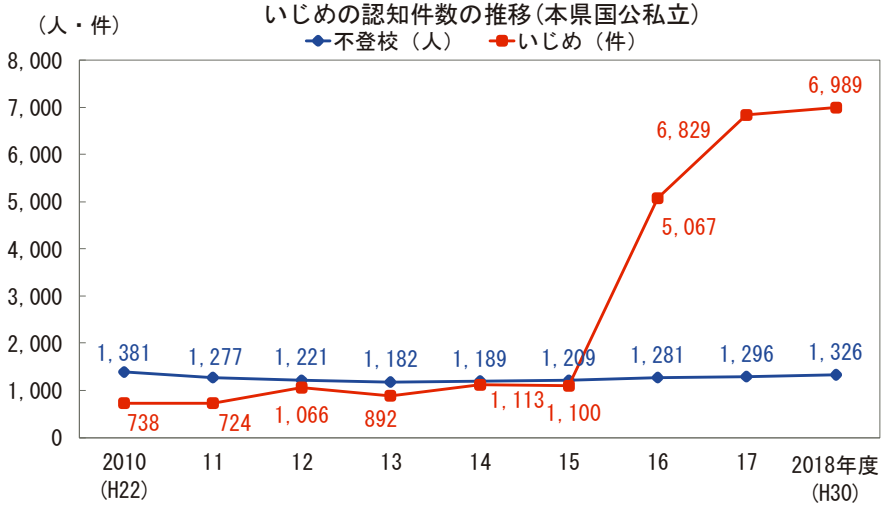
⑥　本県の児童生徒のいじめ・不登校の状況

本県小・中学校における不登校児童生徒数は、横ばい傾向となっている。

また、小・中学校におけるいじめの認知件数は、いじめの早期発見や積極的な認知を働きかけてきたところ、2016 年度から大幅に増えており、早期発見・解消に向けて、スクールカウンセラーの配置など相談体制の充実に取り組んでいる。

（図６、表７）

図６　小・中学校における不登校児童生徒数、
いじめの認知件数の推移（本県国公私立）



資料：文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

表７　スクールカウンセラー配置・派遣学校数及び延べ相談者数（公立小・中学校）

年度	2010 (H22)	11	12	13	14	15	16	17	2018年度 (H30)
スクールカウンセラー配置・派遣学校数（校）	123	126	126	126	144	161	186	275	360
スクールカウンセラー延べ相談者数（人）	11,101	11,408	10,712	12,205	15,148	17,293	21,881	24,301	24,104

資料：県教育庁

⑦　職場体験・インターンシップ実施状況

公立中学校の職場体験実施校は 2018 年度において 96.2%と前年度より減少した。年間 5 日以上実施率は 5.3%と前年度より 1.4%上回ったものの、全国平均を大きく下回っている。

また、公立高等学校におけるインターンシップ実施校の割合は前年度より減少し、全国平均を下回る状況が続いている。**（表８）**

表８　職場体験・インターンシップ実施状況

（単位：校、%）

区　　分	2014 (H26)	15	16	17	2018年度 (H30)
職場体験実施校（青森県）	161	157	153	153	150
職場体験実施率（青森県）	100.0	98.1	95.6	98.1	96.2
職場体験実施率（全国）	98.4	98.3	98.1	98.6	97.7
年間５日以上実施率（青森県）	5	5.1	5.2	3.9	5.3
年間５日以上実施率（全国）	14	12.7	12.8	12.2	11.9
インターンシップ実施校（青森県）	56	54	51	52	51
インターンシップ実施率（青森県）	76.7	77.1	73.9	77.6	77.3
インターンシップ実施率（全国）	79.3	81.8	83.7	84.8	84.9

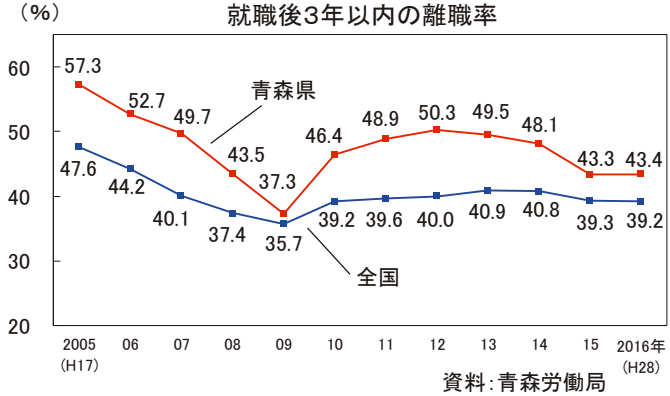
※　職場体験は公立中学校、インターンシップは公立高等学校（全日制・定時制）の実施状況。
※　実施率は学校数に対する実施校の割合。

資料：国立教育政策研究所「職場体験・インターンシップ実施状況等調査」

⑧　県内企業における新規高等学校卒業者の離職率

県内企業における新規高等学校卒業者の就職後 3 年以内の離職率は、2012 年以降減少傾向にあるが、全国平均より高い状況が続いている。**（図９）**

図9　県内企業における新規高等学校卒業者の就職後3年以内の離職率



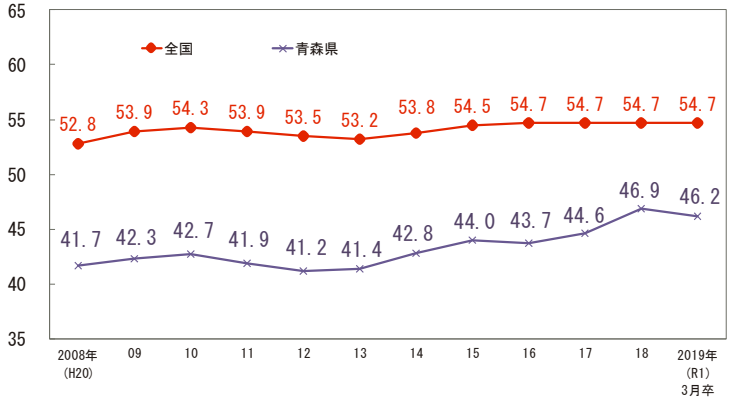
資料：青森労働局

⑨　高等学校卒業者の大学等進学率・就職率の推移

本県においては、近年は大学等進学率が 45%程度、就職率は 30%程度で推移している。

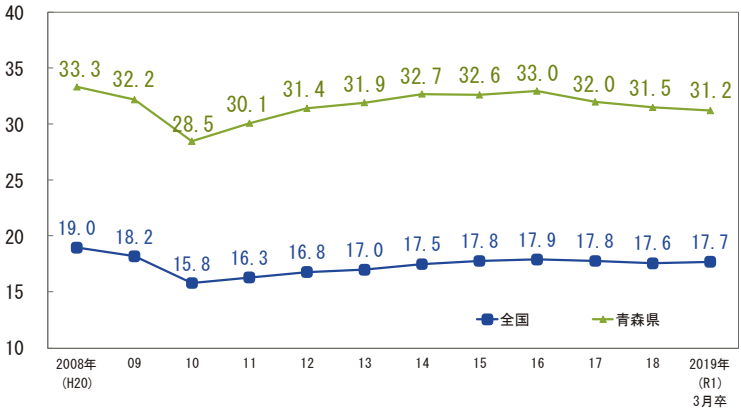
本県では経済的な要因等もあり、高等学校卒業後に就職を希望する生徒の割合が高いが、一方で景気動向などの経済情勢の変化や、企業の雇用環境の動向などにより、大学等進学率・就職率に変動が見られる。**(図 10、図 11)**

図10　高等学校卒業者の大学等進学率の推移



資料：文部科学省「学校基本調査」

図11　高等学校卒業者の就職率の推移

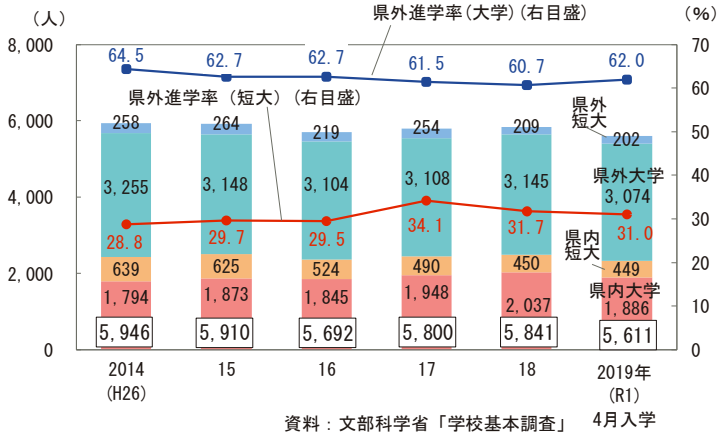


資料：文部科学省「学校基本調査」

⑩　県内高校出身者の大学・短期大学への入学状況

県内の高等学校を卒業し、2019 年 4 月に大学・短期大学へ入学した者は、5,611 人であり、前年から 230 人減少した。大学入学者の県外進学率は、近年 60%程度となっている。(図 12)

図12　県内高校出身者の大学・短大への入学状況



資料：文部科学省「学校基本調査」

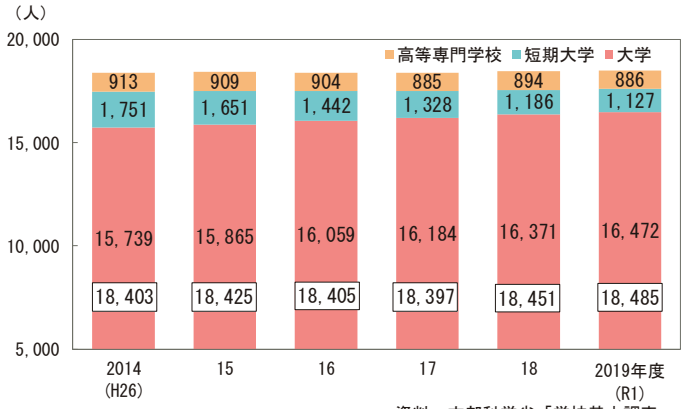
⑪　高等教育機関在学者数の推移

2019 年度の県内の大学等の高等教育機関数は、大学が 10 校（県外に本部を置く北里大学を除く）、短期大学が 5 校、高等専門学校が 1 校の計 16 校、在学者数は 1 万 8,485 人となっている。

県内の高等教育機関在学者数は、おおむね 1 万 8,000 人台で推移している。

(図 13、次頁表 14)

図13　県内大学・短期大学・高等専門学校在学者数の推移



資料：文部科学省「学校基本調査」

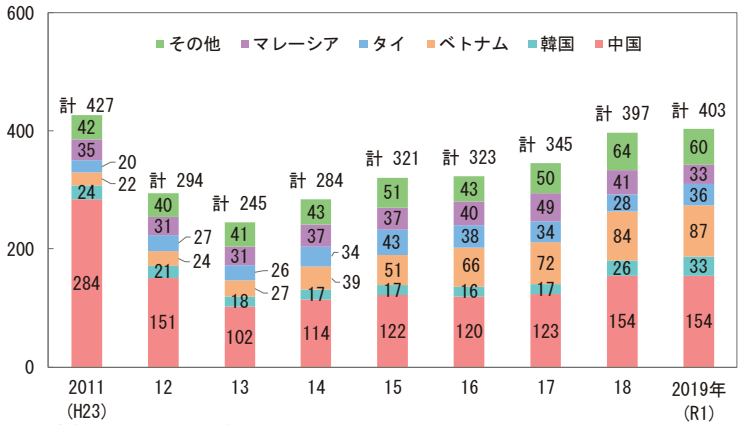
表14　青森県内の大学・短期大学等(2020年4月現在)

区分		名称	学部	学科
大学	国立	弘前大学	人文社会科学部	文化創生課程、社会経営課程
			教育学部	学校教育教員養成課程、 養護教諭養成課程
			医学部	医学科、保健学科、心理支援科学科
			理工学部	数物科学科、物質創成化学科、 地球環境防災学科、 電子情報工学科、機械科学科 自然エネルギー学科
			農学生命科学部	生物学科、分子生命科学科、 食料資源学科、国際園芸農学科、 地域環境工学科
		（大学院・修士課程）	人文社会科学研究科	人文社会科学専攻
		（大学院・専門職学位課程）	教育学研究科	学校教育専攻、教職実践専攻
		（大学院・博士課程）	医学研究科	医科学専攻
		（大学院・博士前期/後期課程）	保健学研究科	保健学専攻
		（大学院・博士前期課程）	理工学研究科	理工学専攻
		（大学院・博士後期課程）		機能創成科学専攻、安全システム工学専攻
		（大学院・修士課程）	農学生命科学研究科	農学生命科学専攻
		（大学院・博士後期課程）	地域社会研究科	地域社会専攻
		（大学院・修士課程）	地域共創科学研究科	地域リノベーション専攻 産業創成科学専攻
		（大学院・博士課程）	岩手大学大学院 連合農学研究科	生物生産科学専攻、生物資源科学専攻、 地域環境創生学専攻
	公立	青森県立保健大学	健康科学部	看護学科、理学療法学科、 社会福祉学科、栄養学科
		（大学院・博士前期/後期課程）	健康科学研究科	健康科学専攻
		青森公立大学	経営経済学部	経営学科、経済学科、地域みらい学科
		（大学院・博士前期（修士）/後期課程）	経営経済学研究科	経営経済学専攻
	私立	北里大学	獣医学部	獣医学科、動物資源科学科、 生物環境科学科
		（大学院・修士課程）	獣医学系研究科	動物資源科学専攻、生物環境科学専攻
		（大学院・博士課程）	獣医学系研究科	獣医学専攻、動物資源科学専攻
		青森大学	総合経営学部 社会学部 ソフトウェア情報学部 薬学部	経営学科 社会学科 ソフトウェア情報学科 薬学科
		青森中央学院大学	経営法学部 看護学部	経営法学科 看護学科
		（大学院・修士課程）	地域マネジメント研究科	地域マネジメント専攻
		東北女子大学	家政学部	健康栄養学科、児童学科
		弘前学院大学	文学部 社会福祉学部 看護学部	英語・英米文学科、日本語・日本文学科 社会福祉学科 看護学科
		（大学院・修士課程）	文学研究科 社会福祉学研究科	日本文学専攻 人間福祉専攻
		弘前医療福祉大学	保健学部	看護学科、 医療技術学科（作業療法学専攻、 言語聴覚学専攻）
		八戸工業大学	工学部	機械工学科 電気電子工学科 システム情報工学科 生命環境科学科 土木建築工学科
			感性デザイン学部	創生デザイン学科
		（大学院・博士前期/後期課程）	工学研究科	機械・生物化学工学専攻 電子電気・情報工学専攻 社会基盤工学専攻
		八戸学院大学	ビジネス学部 地域経営学部 健康医療学部	ビジネス学科 地域経営学科 人間健康学科、看護学科
短期大学	私立	青森明の星短期大学		子ども福祉未来学科
		青森中央短期大学		食物栄養学科 幼児保育学科 専攻科福祉専攻
		東北女子短期大学		生活科、保育科
		弘前医療福祉大学短期大学部		救急救命学科 介護福祉学科
		八戸学院短期大学部		幼児保育学科 介護福祉学科
独立行政法人国立高等専門学校機構				産業システム工学科（本科）
八戸工業高等専門学校				産業システム工学専攻（専攻科）

⑫　留学生の在学状況

県内の大学、短期大学、高等専門学校に在籍する外国人留学生は 2019 年 5 月 1 日現在で 403 人となっており、うち中国からの留学生が全体の 38.2%を占めている。教育機関のＰＲ強化等により、外国人留学生は東日本大震災前の水準に回復している。(図 15)

図15　県内大学等における外国人留学生在籍状況

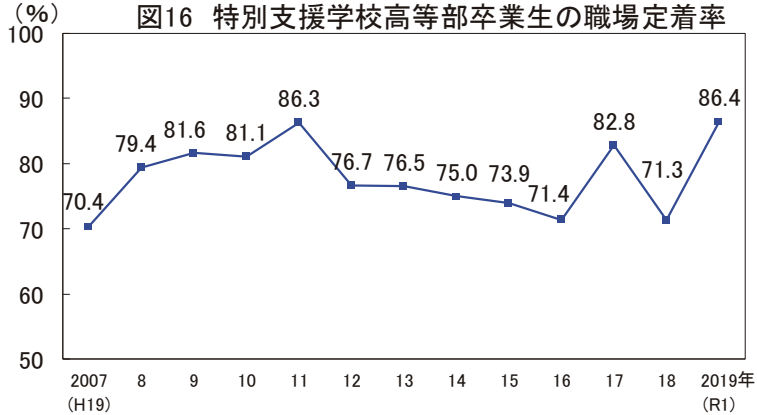


※青森大学（東京キャンパス）除く　　資料：青森県留学生交流推進協議会

⑬　特別支援学校高等部卒業生の職場定着率

特別支援学校高等部卒業生の職場定着率は、70%以上を維持している。(図 16)

図16　特別支援学校高等部卒業生の職場定着率



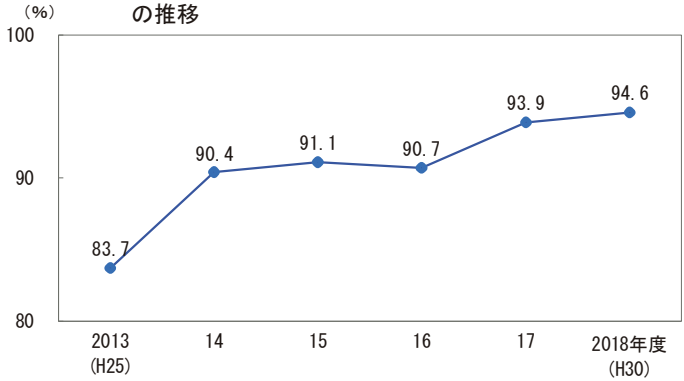
（注）特別支援学校高等部卒業後3年間同じ職場で勤務している者の割合（各年3月）　　資料：県教育庁

⑭　学校支援ボランティアの受入状況

県内の公立小・中学校で、学校の教育活動を支援するためのボランティア（学校支援ボランティア）を受け入れている割合は、2018 年度において 94.6%であり、地域ぐるみで学校を支援する活動が広がっている。**(図 17)**

学校支援ボランティア活動の分野別の受入割合は、多い順に「ゲストティーチャー」(80.9%)、「環境サポーター」(80.1%)、「学校行事の補助」(71.5%)、「学習アシスタント」(57.4%)、「施設メンテナー」(23.2%) となっている。

図17　県内公立小・中学校の学校支援ボランティア受入状況の推移



資料：県教育庁「学校と地域との連携に関するアンケート調査」

⑮　図書館の利用状況

2019 年 4 月 1 日現在、県内には 34 の図書館がある。図書を借用して館外に持ち出した者（帯出者）の延べ人数は、2004 年度と比較して 2014 年度は 3.5%減少しているが、貸出冊数は 5.6%増加している。**(表 18)**

表18　図書館の利用状況

（単位：人）

区　分	2004 (H16)	2007	2010	2014年度 (H26)
登録者数	197,789	190,338	180,394	140,097
うち児童	21,339	16,470	22,861	16,871
帯出者数	1,068,992	1,142,932	1,158,017	1,031,890
うち児童	205,107	161,252	144,897	154,779
貸出冊数	3,383,272	3,550,526	3,633,237	3,573,857
うち児童	813,421	633,814	650,672	739,471

※　登録者数、帯出者数等で児童数内訳を把握できない図書館あり。

資料：文部科学省「社会教育調査」

(2)　人づくり、移住・交流

移住相談・情報提供件数（2018 年度）　10,158 件

在留外国人数	青森県	全　国
（2018年末）	5,786 人（男2,196, 女3,590）	273 万 1,093 人
うち中国	1,285 人（男 506, 女 779）	76万 4,720 人
韓国	769 人（男 362, 女 407）	44万 9,634 人
ベトナム	1,502 人（男 408, 女1,094）	33 万 835 人

料：県企画政策部、法務省「在留外国人統計」

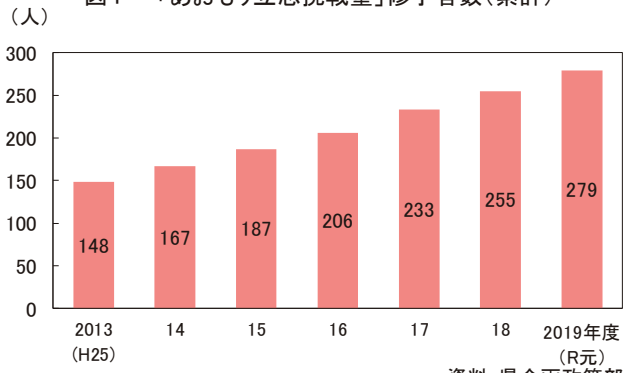
①　あおもり立志挑戦塾の修了者数

「あおもり立志挑戦塾」（寺島実郎塾長）は、本県の経済や地域づくりをけん引していく気概とチャレンジ精神、自由で柔軟な発想力、そして広い視野を持って、何事にも果敢に挑戦していく人財の育成とネットワークづくりを目的に、20～30代の県内社会人を対象に開催される人財育成の取組である。

塾では、塾長や多彩な講師による講話や、同世代の仲間とのグループディスカッション等を通じて、自らが生涯を通じて達成を目指す「人生の志」を立てるなど、自らの人生観や新たな世界観を広げ、成長する場を提供している。

2008年からこれまでに279名（1期～12期生）が塾を修了しており、県内各地域・各分野でリーダーとして活躍しているほか、「あおもり立志挑戦の会(ARC)」を設立し、地域貢献活動を行っている。**（図１）**

図1　「あおもり立志挑戦塾」修了者数（累計）



資料：県企画政策部

②　移住・相談窓口の設置状況

本県の首都圏における情報発信と移住相談窓口として「青森暮らしサポートセンター」を東京都内に設置し、専属の移住相談員による常時の相談体制を整えるとともに、首都圏セミナーを開催するなど移住・交流の促進に取り組んでいる。

また、県内40市町村全てにおいて、専門の担当窓口を設置しているほか、弘前市、八戸市では、首都圏における独自の相談窓口を設置している。**（表２）**

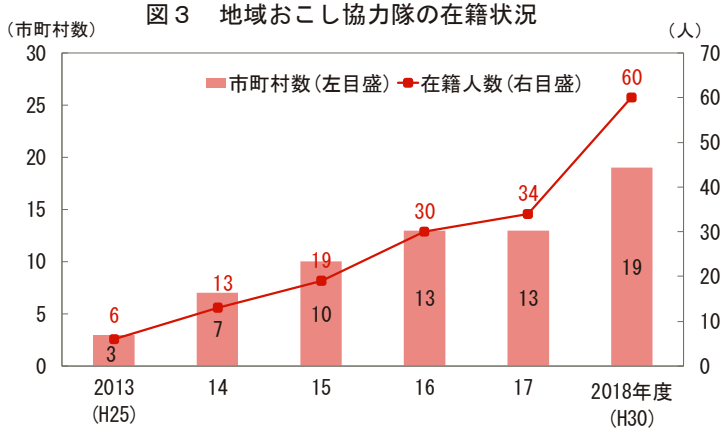
表2　移住・相談窓口の設置状況

	名称	所在地
青森県 （40市町村）	青森暮らしサポートセンター	東京交通会館　8階 （ふるさと回帰支援センター内）
弘前市	ひろさき移住サポートセンター東京事務所	東京交通会館　6階
八戸市	八戸圏域連携中枢都市圏　観光・UIJターン窓口	全国都市会館　5階 （八戸市東京事務所内）

③　地域おこし協力隊の在籍状況

地域おこし協力隊は2019年3月末時点で、19市町村で60名の隊員が地域活動に従事している。**（図３）**

図３　地域おこし協力隊の在籍状況



資料：県企画政策部

※在籍状況は、各年度3月末時点の在籍状況。

※地域おこし協力隊：都市地域から過疎地域等へ生活の拠点を移し、おおむね１年以上３年以下の期間、地方自治体の委嘱を受けて地域で生活し、農林漁業の応援、住民の生活支援などの各種の地域活動に従事する者をいう。

④　外国人登録者数

県内外国人登録者数は、近年増加傾向にあり、2018年は12月末時点で5,786人となった。

国籍別の内訳は、アジア地域が全体の87.6%を占め、ベトナム、中国、韓国・朝鮮の割合が大きくなっている。近年、ベトナムの伸びが大きく、2018年の内訳では、1位となっている。**（表４）**

表４　県内主要国籍別外国人登録者数

（単位：人）

地域・国		2013年(H25)	14年	15年	16年	17年	2018年(H30)
アジア		3,352	3,417	3,614	3,922	4,472	5,069
	中国	1,310	1,259	1,236	1,106	1,217	1,285
	韓国・朝鮮	958	888	862	844	838	845
	フィリピン	534	535	535	551	589	656
	ベトナム	133	247	414	771	1,093	1,502
	その他	417	488	567	650	735	781
ヨーロッパ		140	138	135	131	123	141
北アメリカ		390	396	408	425	434	448
南アメリカ		33	36	36	38	37	63
オセアニア		35	32	30	30	35	46
アフリカ		24	21	21	21	19	18
無国籍		1	1	1	1	1	1
計		3,975	4,041	4,245	4,568	5,121	5,786

資料：法務省「在留外国人統計」 統計」

在留資格別に内訳を見ると、永住・定住を除き技能実習の割合が最も多く、2013年から2018年の５年間で２倍以上の伸びとなっている。次いで、割合は大きく下がり、留学生、技能・人文知識・国際業務が続いている。**（次頁表５）**

2018年の国籍別・在留資格別では、技能実習においてベトナムが2,099人の登録者数のうち1,309人と62.4%を占め、また、留学においてもベトナムが中国に次いで２番目に多くなっている。**（次頁表６）**

表５　県内在留資格別外国人登録者数

（単位：人）

在留資格	2013年 (H25)	14年	15年	16年	17年	2018年 (H30)	構成比 (%)	対前年伸び率 (%)
留学	280	313	338	352	384	414	7.2	7.8
技能実習	786	864	995	1,271	1,650	2,099	36.3	27.2
高度専門職（※2015年新設）			3	3	6	12	0.2	100.0
技能	81	77	84	81	67	55	1.0	△ 17.9
技術・人文知識・国際業務	105	104	121	151	188	247	4.3	31.4
教育	137	129	138	143	144	159	2.7	10.4
教授	19	17	15	15	14	17	0.3	21.4
永住・定住	2,315	2,276	2,265	2,232	2,242	2,268	39.2	1.2
その他	252	261	286	320	426	515	8.9	20.9
計	3,975	4,041	4,245	4,568	5,121	5,786	100.0	13.0

資料：法務省「在留外国人統計」

表６　県内主要国籍別、在留資格別外国人登録者数（2018年）

（単位：人）

地域・国	計	留学	技能実習	高度専門職	技能	技術・人文知識・国際業務	教育	教授	永住・定住	その他
中国	1,285	155	453	4	7	41	0	4	400	221
韓国	769	26	0	6	1	27	0	6	682	21
フィリピン	656	0	124	0	0	18	5	1	480	28
ベトナム	1,502	86	1,309	0	0	54	0	0	24	29
その他	1,574	147	213	2	47	107	154	6	682	216
計	5,786	414	2,099	12	55	247	159	17	2,268	515

資料：法務省「在留外国人統計」

※在留資格者の該当例

留学：大学、短期大学，高等専門学校，高等学校中学校及び小学校等の学生・生徒

技能実習：技能実習生

高度専門職：ポイント制による高度人材

技能：外国料理の調理師，スポーツ指導者，航空機の操縦者，貴金属等の加工職人等

技術・人文知識・国際業務：機械工学等の技術者，通訳，デザイナー，私企業の語学教師，マーケティング業務従事者等

教育：中学校・高等学校等の語学教師等

教授：大学教授等

永住・定住：法務大臣から永住の許可を受けた者，日本人の配偶者・子・特別養子，永住者・特別永住者の配偶者及び本邦で出生し引き続き在留している子，第三国定住難民，日経３世，中国在留邦人等

⑤　本県の友好提携

本県の国際交流に係る協定等は、1980年にサンタ・カタリーナ州（ブラジル連邦共和国）、1992年にハバロフスク地方（ロシア連邦）、1994年にメーン州（アメリカ合衆国）、2002年にリグーリア州（イタリア共和国）、2004年に大連市（中華人民共和国）、2016年に済州特別自治道（大韓民国）及び台中市（台湾）、2017年に台南市（台湾）と締結している。

市町村では20市町村が友好提携（2019年12月現在）を結び、教育、文化、芸術など様々な分野で地域の特色を生かした交流を行っている。**（表７）**

表７　県内自治体の姉妹・友好提携一覧

団体名		国名・地域	姉妹・友好提携先	提携年月日
青森県		ブラジル連邦共和国	サンタ・カタリーナ州	1980.10.23
		ロシア連邦	ハバロフスク地方	1992. 8.27
		アメリカ合衆国	メーン州	1994. 5.25
		イタリア共和国	リグーリア州	2002. 5. 7
		中華人民共和国	遼寧省大連（ダイレン）市	2004.12.24
		大韓民国	済州（チェジュ）特別自治道	2016. 8. 8
		台湾	台中市　※平川市を含む三者による協定	2016.12.14
		台湾	台南市　※弘前市を含む三者による覚書	2017.12. 4
市町村	青森市	ハンガリー	バーチ・キシュクン県ケチケメート市	1994. 8. 4
		大韓民国	京畿道平澤（ピョンテク）市	1995. 8.28
		中華人民共和国	遼寧省大連市	2004.12.24
		台湾	新竹県	2014.10.17
	弘前市	台湾	台南市　※県を含む三者による覚書	2017.12. 4
	八戸市	アメリカ合衆国	ワシントン州フェデラルウェイ市	1993. 8. 1
		中華人民共和国	甘粛省蘭州（ランシュウ）市	1998. 4.14
	黒石市	アメリカ合衆国	ワシントン州ウェナッチ市	1971.10. 5
		大韓民国	慶尚北道永川（ヨンチョン）市	1984. 8.17
	三沢市	アメリカ合衆国	ワシントン州ウェナッチ市	1981.10. 4
		アメリカ合衆国	ワシントン州東ウェナッチ市	2001. 8.23
	むつ市	アメリカ合衆国	ワシントン州ポートエンジェルス市	1995. 8.13
	つがる市	アメリカ合衆国	メーン州バス市	2006. 7. 6
	平川市	台湾	台中市　※県を含む三者による協定	2016.12.14
	鰺ヶ沢町	ブラジル連邦共和国	サンパウロ州サンセバスチョン市	1984.10.26
	深浦町	フィンランド共和国	ラップランド州ラヌア郡	1990. 6.26
	西目屋村	中華人民共和国	吉林省梨樹県葉嚇満族鎮（ヨウカクマンゾクチン）	1985. 4.29
	大鰐町	アメリカ合衆国	ミシガン州ノーバイ市	1991.12.20
	板柳町	アメリカ合衆国	ワシントン州ヤキマ市	1972. 2. 3
		中華人民共和国	北京市昌平（ショウヘイ）区	1993. 6.23
	鶴田町	アメリカ合衆国	オレゴン州フッドリバー市	1977. 7.27
	七戸町	大韓民国	慶尚南道河東（ハドン）郡	1994.11.16
	六ケ所村	ドイツ連邦共和国	メクレンブルク・フォアポンメルン州ヴァーレン市	1994. 4.22
	大間町	台湾	雲林県虎尾鎮（コビチン）	1979.10.10
	三戸町	オーストラリア連邦	ニューサウスウェールズ州タムワース市	2001. 7. 5
	五戸町	フィリピン共和国	ヌエバ・ビスカヤ州バヨンボン町	1983.12.22
		大韓民国	忠清北道沃川（オクチョン）郡	1997. 8.28
	田子町	アメリカ合衆国	カリフォルニア州ギルロイ市	1988. 4.18
		イタリア共和国	ピアツェンツァ郡モンティチェリ・ドンジーナ町	1992. 9.11
		大韓民国	忠清南道瑞山（ソサン）市	2012. 6.22

資料：県観光国際戦略局

(3) 文化・スポーツ

県立郷土館利用者数（2018 年度）	約 6 万 4 千人
県立美術館入館者数（　　〃　　）	約 26 万 6 千人
県内の公共スポーツ施設（2015 年度）	832 施設
第 74 回国民体育大会（2019 年）	天皇杯 45 位（前回 42 位）

資料：文部科学省「2015（平成 27）年度体育・スポーツ施設現況調査」、県教育庁、県観光国際戦略局

①　「北海道・北東北の縄文遺跡群」構成資産

2021 年の世界文化遺産登録をめざしている「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、17 の構成資産のうち８つが県内に所在している。

青森県：三内丸山遺跡、小牧野遺跡、大森勝山遺跡、是川石器時代遺跡、田小屋野貝塚、亀ヶ岡石器時代遺跡、大平山元遺跡、二ツ森貝塚

北海道：大船遺跡、垣ノ島遺跡、キウス周堤墓群、北黄金貝塚、入江・高砂貝塚（入江貝塚）、入江・高砂貝塚（高砂貝塚）

岩手県：御所野遺跡

秋田県：大湯環状列石、伊勢堂岱遺跡

② ユネスコ無形文化遺産

重要無形民俗文化財「八戸三社大祭の山車行事」など18府県33県の祭りで構成される「山（やま）・鉾（ほこ）・屋台行事（やたいぎょうじ）」が、2016年12月にユネスコ無形文化遺産に登録されている。

③ 日本遺産

県無形民俗文化財である「鰺ヶ沢白八幡宮の大祭行事」や、県重宝である深浦町の円覚寺宝篋印塔（えんがくじほうきょういんとう）、野辺地町の町指定史跡「浜町の常夜燈」などの文化財を含む「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」が、日本遺産に認定されている。（日本海及び瀬戸内海沿岸自治体により構成）

④ 文化財

表１　国・県指定文化財一覧（2020年2月29日現在）

【国指定】

国宝	
工芸品	2
考古資料	1
重要文化財	
建造物	32
彫刻	2
工芸品	7
考古資料	13
重要無形文化財	
工芸技術	1
民俗文化財	
重要有形民俗文化財	8
重要無形民俗文化財	8
記念物	
特別史跡	1
史跡	21
特別名勝及び天然記念物	1
名勝及び天然記念物	1
名勝	5
特別天然記念物	2
天然記念物	16
合計	121

【県指定】

県重宝	
建造物	44
絵画	6
彫刻	30
工芸品	29
書跡	2
考古資料	29
歴史資料	12
無形文化財	
県技芸	2
民俗文化財	
県有形民俗文化財	13
県無形民俗文化財	54
記念物	
県史跡	20
県名勝	3
県天然記念物	40
合計	284

【国選定等】

選定	
重要伝統的建造物群保存地区	2
選定保存技術	1
登録	
登録有形文化財（建造物）	103
登録有形民俗文化財	1
登録記念物	4
記録選択	
記録作成等の措置を講ずべき無形文化財	1
記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財	15
重要美術品	
書跡	4
考古資料	1
合計	132

資料：県教育庁

【国指定の主な文化財】

国宝［工芸品］

赤糸威鎧兜（あかいとおどしよろいかぶと）、大袖付（おおそでつき）、

白糸威褄取鎧兜（しらいとおどしつまどりよろいかぶと）、大袖付（おおそでつき）（いずれも八戸市）

国宝［考古資料］

合掌土偶（八戸市風張（かざはり）1遺跡出土）

重要文化財［建造物］

弘前城、最勝院五重塔（いずれも弘前市）、櫛引八幡宮本殿（八戸市）

重要無形文化財［工芸技術］

津軽塗

重要無形民俗文化財

青森のねぶた、八戸のえんぶり、下北の能舞

記念物［特別史跡］

三内丸山遺跡（青森市）

記念物［特別名勝及び天然記念物］

十和田湖および奥入瀬渓流（十和田市）

⑤　伝統工芸

県内には、津軽塗や南部裂織を始め、地域に生まれ、生活の中で育まれてきた優れた伝統工芸品が数多く存在する。これらの多くは、後継者や販路の確保といった課題を抱えていることから、県では、伝統工芸品の価値の再評価とその作り手の意識の向上を図るため、一定の要件を満たすものを「青森県伝統工芸品」に指定している。（表２）

表２　青森県伝統工芸品一覧表

工芸品名	市町村名
津軽塗	弘前市
津軽焼	弘前市
八戸焼	八戸市
下川原焼土人形	弘前市
あけび蔓細工	弘前市
津軽竹籠	弘前市
ひば曲物	藤崎町
こぎん刺し	青森市、弘前市
南部裂織	八戸市、十和田市、むつ市 七戸町、佐井村、五戸町
南部菱刺し	八戸市、七戸町、五戸町
温湯こけし	黒石市
大鰐こけし・ずぐり	大鰐町
弘前こけし・木地玩具	弘前市
八幡馬	八戸市
善知鳥彫ダルマ	青森市

工芸品名	市町村名
津軽凧	弘前市
津軽びいどろ	青森市
錦石	青森市、弘前市、外ヶ浜町
南部姫毬	南部町
えんぶり烏帽子	八戸市
きみがらスリッパ	十和田市
目屋人形	西目屋村
津軽打刃物	弘前市
津軽桐下駄	弘前市
南部総桐箪笥	三戸町、八戸市
太鼓	弘前市
ねぶたハネト人形	青森市
津軽裂織	青森市、平内町、つがる市
津軽組ひも	五所川原市
五戸ぱおり	五戸町
ブナコ	弘前市
南部花形組子	八戸市

資料：県商工労働部

⑥　祭り

本県には、日本を代表する火祭り「青森ねぶた祭」、歴史と文化に彩られた津軽の夏の風物詩「弘前ねぷたまつり」、様々な趣向を凝らした山車の迫力や華麗さが魅力の「八戸三社大祭」、奥津軽の夏の夜空を焦がす勇壮絢爛な「五所川原立佞武多」、京都祇園祭の流れを汲む豪華絢爛な「田名部まつり」などの夏祭りや、三八地域に春を呼ぶ豊作祈願の祭りである「えんぶり」を始め、県内各地に四季折々の伝統的な祭りが数多くある。

これらの祭りは、観光資源としてはもとより、少子化・高齢化が進む中にあって、地域の絆を強め、コミュニティ機能を維持していく上でも重要な役割を担っており、地域に根ざした県民共通の財産として、未来へ伝えていく必要がある。

⑦　本県出身の主な文化人、著名人、スポーツ選手

本県の豊かな自然や風土に育まれて、多くの県人が文学やアート、芸能、スポーツなど様々な分野で多彩な活躍をしている。**（表３：敬称略）**

表３　本県出身の主な文化人、著名人、スポーツ選手など

文学・ジャーナリズム	陸羯南（ろくかつなん）（1857～1907）	新聞「日本」を創刊し、明治時代における我が国の言論界をリードした。
	羽仁もと子（はにもとこ）（1873～1957）	日本初の女性記者。「家庭之友」（のち「婦人之友」）を創刊するとともに、自由教育を推進するため、「自由学園」を創設した。
	石坂洋次郎（いしざかようじろう）（1900～1986）	軽快な青春小説で国民的な人気を博した作家。戦後発表された「青い山脈」が大ヒットし、「百万人の作家」と称され、一世を風靡した。
	太宰治（だざいおさむ）（1909～1948）	近代日本文学を代表する作家。「人間失格」「斜陽」「走れメロス」を始め、多くの作品を世に出した。2009年に生誕100周年を迎え、作品が映画化されるなど再び人気が高まっている。
	三浦哲郎（みうらてつお）（1931～2010）	1961年「忍ぶ川」で、県人初となる、第44回芥川賞を受賞。その後も様々な作品を発表し、数多くの文学賞を受賞した。
	長部日出雄（おさべひでお）（1934～2018）	弘前市出身の小説家、評論家。1973年、「津軽じょんがら節」と「津軽世去れ節」により第69回直木賞を受賞。
	寺山修司（てらやましゅうじ）（1935～1983）	歌人、詩人、劇作家、映画監督など、多くの分野で活躍。演劇実験室「天井桟敷」を結成し、海外公演も手がけるなど、マルチな才能を発揮した。
	沢田教一（さわだきょういち）（1936～1970）	報道カメラマンとして、ベトナム戦争の最前線で取材を行った。撮影した写真は国際的に高い評価を受け、「安全への逃避」はピュリッツァー賞に輝いた。
	梅内美華子（うめうちみかこ）（1970～）	歌人。2011年、歌集「エクウス」が高い評価を受け、文化庁の芸術選奨新人賞を受賞。
	高橋弘希（たかはしひろき）（1979～）	十和田市生まれの小説家。2018年、「送り火」で第159回芥川賞を受賞。県出身者では、三浦哲郎以来57年ぶりの受賞。
科学技術	石館守三（いしだてもりぞう）（1901～ 1996）	薬学の世界的権威で、東京大学初代薬学部長。ハンセン病の治療薬「プロミン」の国産化や、国産初のがん化学療法剤「ナイトロミン」の創製に成功した。
	木村秀政（きむらひでまさ）（1904～1986）	東京帝国大学（現東京大学）航空研究所が設計し、長距離飛行記録を達成した「航研機」の制作や、初の国産旅客機「ＹＳ11」の開発に携わった。
	西山正治（にしやましょうじ）（1922～1993）	医師。世界初の「レントゲン車」を考案、開発するとともに、多方向から患部を撮影できる「ジャイロスコープ」の開発に取り組んだ。
	川口淳一郎（かわぐちじゅんいちろう）（1955～）	小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトマネージャー。2010年、「はやぶさ」は7年の歳月を経て、小惑星「イトカワ」から帰還するという世界初の快挙を達成した。

美術・音楽	棟方　志功（ムナカタ　シコウ） （1903～1975）	「世界のムナカタ」と呼ばれ、20世紀を代表する世界的な「板画家」である。大胆かつ独創的な表現で、他に類を見ない独特の世界を築いた。
	鷹山　宇一（タカヤマ　ウイチ） （1908～1999）	画家。花やチョウなどをモチーフに、幻想的な画風で日本画壇に新風を巻き込むとともに、二科会の重鎮としても活躍した。
	工藤　甲人（クドウ　コウジン） （1915～2011）	現代日本画界を代表する一人。戦後、湧き起こった新しい日本画の創造を目指す活動に共感し、心象イメージを絵画世界に表す独特の作風を築き上げた。
	成田　亨（ナリタ　トオル） （1929～2002）	彫刻家、特撮美術監督。「ウルトラマン」シリーズの多くの怪獣、ウルトラマン、宇宙人、メカのデザインを手がけ、現代日本文化を代表するモチーフを生み出した。
	奈良　美智（ナラ　ヨシトモ） （1959～）	我が国を代表する現代美術家。国際的にも高い評価を受けており、独特の風貌の少女を描いた作品や、青森県立美術館にある「あおもり犬」で有名。
	ナンシー関（セキ） （1962～2002）	著名人の似顔絵の消しゴム版画と、これを挿絵として使ったコラムで人気を博した。
	高橋　竹山（タカハシ　チクザン） （1910～1998）	津軽三味線を国内はもとより海外へも広めた津軽三味線演奏の第一人者。アメリカ公演では、「三味線の名匠」と絶賛された。
	淡谷　のり子（アワヤ） （1907～1999）	東洋音楽学校（現在の東京音楽大学）を首席で卒業し、歌謡界へ。日本のシャンソン界の先駆者となる。「別れのブルース」「雨のブルース」が大ヒットし、「ブルースの女王」と呼ばれた。
	沖澤　のどか（オキサワ） （1987～）	世界的指揮者の登竜門で小澤征爾さんらを輩出した仏ブザンソン国際若手指揮者コンクールで、2019年に優勝を果たした。日本人として10人目。観客賞とオーケストラ賞も総なめする快挙。
スポーツ選手など	齋藤　春香（サイトウ　ハルカ） （1970～）	弘前市出身。ソフトボール選手・指導者。2000年シドニー、2004年アテネオリンピックに出場し、主砲として活躍し、2大会連続で銀メダルを獲得。2008年北京オリンピックでは、ソフトボール日本代表監督として金メダルに導いた。
	小原　日登美（オバラ　ヒトミ） （1981～）	八戸市出身。2012年ロンドンオリンピック女子レスリング48キロ級で金メダルを獲得。
	伊調　千春（イチョウ　チハル） （1981～）	八戸市出身。2004年アテネ、2008年北京オリンピック女子レスリング48キロ級で、2大会連続銀メダルを獲得。
	泉　浩（イズミ　ヒロシ） （1982～）	大間町出身。2004年アテネオリンピック男子柔道90キロ級で銀メダルを獲得。
	伊調　馨（イチョウ　カオリ） （1984～）	八戸市出身。2004年アテネ、2008年北京、2012年ロンドン、2016年リオデジャネイロオリンピック女子レスリングで、金メダルを獲得。女子個人種目では五輪史上初となる4大会連覇を成し遂げ、2016年に国民栄誉賞を受賞。
	古川　高晴（フルカワ　タカハル） （1984～）	青森市出身。2012年ロンドンオリンピックで、アーチェリー個人戦に出場し、銀メダルを獲得。
	柴崎　岳（シバサキ　ガク） （1992～）	野辺地町出身。プロサッカー選手。2018年ＦＩＦＡワールドカップにおいて、青森県勢初の日本代表として健闘し、決勝トーナメント進出に貢献した。
	太田　忍（オオタ　シノブ） （1993～）	五戸町出身。2016年リオデジャネイロオリンピック男子レスリンググレコローマン59キロ級で、銀メダルを獲得。

歌手・俳優など	泉谷　しげる（イズミヤ） （1948～）	青森市長島で生まれ、東京都で育つ。フォークシンガーや役者として活躍中。東北新幹線全線開業のテレビＣＭでは、新青森駅長を好演した。
	三上　寛（ミカミ　カン） （1950～）	日本を代表するフォークシンガー。青森をバックボーンに津軽を原風景とした人間の生き様を歌い続ける。詩人として詩集やエッセイも多数。
	吉　幾三（ヨシ　イクゾウ） （1952～）	歌手。1977年に自身の作詞・作曲による「俺はせがたい！プレスリー」がヒット。代表曲「俺ら東京さ行くだ」「雪國」「酒よ」など。
	2代目 市川　笑也（イチカワ　エヤ） （1959～）	歌舞伎俳優。スーパー歌舞伎のヒロインの座を射止め、一躍スターに。2003年に本県で開催された第5回冬季アジア競技大会では、開閉会式の総合演出を担当。
	佐藤　竹善（サトウ　チクゼン） （1963～）	ロックバンド「Sing Like Talking」のボーカル。音楽プロデューサーとして活躍。1998年、青森市市制100周年記念曲を発表。
	吹越　満（フキコシ　ミツル） （1965～）	俳優。数多くの映画、ドラマに出演。シリアスなものからコミカルなものまで、幅広い役柄を演じ、独特の存在感を発揮している。
	坂本　サトル（サカモト） （1967～）	シンガーソングライター。路上、飲食店、レコード店などでの「ＣＤ実演販売ライブ」が話題に。代表曲「天使達の歌」など。
	北山　陽一（キタヤマ　ヨウイチ） （1974～）	人気男性ヴォーカルグループ、ゴスペラーズのメンバーとして活躍。2008年には八戸市から八戸大使に任命される。
	凜華　せら（リンカ） （1980～）	宝塚歌劇団星組で男役として活躍。退団後は女優として、ミュージカル、舞台に多数出演。最近はラーメン達人として活動の幅を広げている。
	新山　千春（ニイヤマ　チハル） （1981～）	青森市生まれ。タレント、クイズ番組などのバラエティ番組で活躍中。
	松山　ケンイチ（マツヤマ） （1985～）	むつ市出身の俳優。映画「デスノート」で一躍脚光を浴びる。全編青森県ロケ、全編津軽弁の映画「ウルトラミラクルラブストーリー」に主演。2012年ＮＨＫ大河ドラマ「平清盛」主演。
	木野　花（キノ　ハナ） （1948～）	女優・演出家。弘前大学教育学部美術学科卒業。80年代小劇場ブームの旗手的な存在。2013年ＮＨＫ連続テレビ小説「あまちゃん」にレギュラー出演。
	横浜　聡子（ヨコハマ　サトコ） （1978～）	青森市出身。2008年、商業映画デビュー作「ウルトラミラクルラブストーリー」を監督。全国公開され、多くの海外映画祭にて上映された。
	古坂　大魔王（コサカ　ダイマオウ） （1973～）	青森市出身。お笑いタレント。「ピコ太郎」の音楽プロデューサーとして「ＰＰＡＰ」を歌う動画の再生回数が１億回を超えるなど世界的に話題となった。
	ELLY（エリー） （1978～）	三沢市出身。人気グループ「三代目J SOUL BROTHERS from EXILE TRIBE」のパフォーマー。

⑧　体育・スポーツ施設

2015年度にスポーツ庁が実施した「体育・スポーツ施設現況調査」によれば、県内の公共スポーツ施設は832施設ある。2019年12月1日現在の主な県有体育施設は、次のとおりである。新青森県総合運動公園内に整備を進めていた陸上競技場は、2018年12月に本体が完成し、2019年9月から利用を開始している。

○ カクヒログループアスレチックスタジアム［新青森県総合運動公園陸上競技場］（青森市）
○　マエダアリーナ［新青森県総合運動公園総合体育館］（青森市）
○　青森県総合運動公園野球場、屋外水泳場（青森市）
○　盛運輸アリーナ［青森県営スケート場］（青森市）
○　青森県武道館（弘前市）

⑨　県内を拠点に活動するスポーツチーム

県内には、地域と深く密着しながら活動するスポーツチームがあり、スポーツ振興や地域の活性化に貢献している。

【主なスポーツチーム】

○青森ワッツ（バスケットボール）
青森県を本拠地とするプロバスケットボールチーム。 青森県内に初めて設立されたプロスポーツチームで、Ｂ．ＬＥＡＧＵＥに参戦している。

○ヴァンラーレ八戸ＦＣ（サッカー）
2018 年 11 月にＪ３昇格が正式決定。Ｊリーグ入会は青森県勢初。

○ラインメール青森ＦＣ（サッカー）
2016 年から日本フットボールリーグに参戦しＪ３昇格を目指している。

○東北フリーブレイズ（アイスホッケー）
八戸市と福島県郡山市をホームタウンとして活動。2009 年からアジアリーグに加盟している東北初のトップリーグチーム。

⑩　総合型地域スポーツクラブ

「誰でも、いつでも、いつまでも」スポーツができる環境づくりと地域コミュニティの形成が有効であると考えられることから、「多世代」、「多志向」、「多種目」により、地域住民が主体となって運営する「総合型地域スポーツクラブ」が全国で展開されている。

本県では、2019年8月1日現在、31市町村で37の総合型地域スポーツクラブが創設されている。また、5市町5クラブ（うち未創設は2町2クラブ）が創設に向け準備を進めている。**（次頁表４）**

表４　県内の総合型地域スポーツクラブ

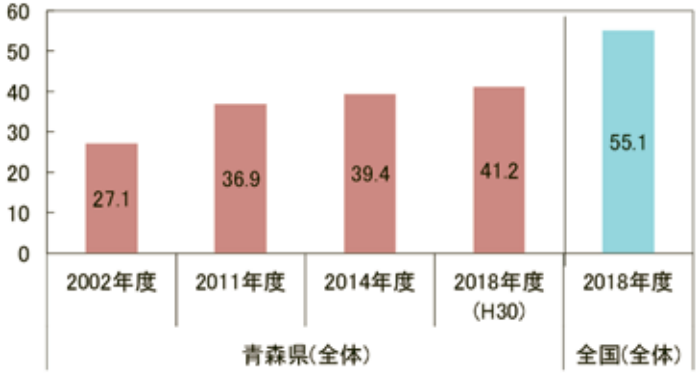
クラブ名	市町村名
青森総合スポーツクラブ Willスポーツクラブ 総合型地域スポーツクラブ ＣＬＵＢ Ｓａｌｕｔｅ	青森市
ＮＰＯ法人リベロスポーツクラブ ＮＰＯ法人スポネット弘前	弘前市
ヴァンラーレ八戸スポーツクラブ ウインズスポーツクラブ 一般社団法人総合型地域スポーツHachinohe Club	八戸市
くろいしアスリート　アンド　エンジョイクラブ	黒石市
五所川原総合スポーツクラブ	五所川原市
総合型スポーツクラブ　ＲＥＤ　ＨＯＲＳＥ	十和田市
スポーツクラブみさわ	三沢市
むつアスリートクラブ	むつ市
いながきスポーツクラブ 車力楽笑スポーツクラブ	つがる市
ひらかわスポーツクラブ	平川市
平内ふれあいスポーツクラブ	平内町
今別町地域総合型クラブＷＡＮＤ	今別町
よもっと元気スポーツクラブ	蓬田村
東津軽郡スポーツクラブ	外ヶ浜町
鰺ヶ沢町スポーツクラブ	鰺ヶ沢町
総合型地域スポーツクラブ　Joy Spo！ふかうら	深浦町
ふじさきいきいきスポーツクラブ	藤崎町
一般社団法人　Roots 大鰐	大鰐町
りんごの里スポーツクラブ	板柳町
鶴田町放課後子どもプラン・子どもスポーツクラブ	鶴田町
六戸町Ｂ＆Ｇクラブ	六戸町
東北町旭町地区総合型地域スポーツクラブ	東北町
ひばりさわやかスポーツクラブ	六ヶ所村
大間町総合型地域スポーツクラブ	大間町
東通村総合型地域スポーツクラブ	東通村
五戸町スポーツクラブ	五戸町
スポネットたっこ	田子町
一般社団法人総合型クラブななっち	南部町
一般社団法人ライズはしかみ	階上町
一般社団法人さんのへスポーツクラブＥｎｊｏｙ	三戸町
三ツ岳スポーツクラブ	新郷村

資料：青森県広域スポーツセンター（県教育庁スポーツ健康課内）

⑪　県民のスポーツ実施率

成人における週1回以上のスポーツ実施率は、着実に増加傾向にあるものの、全国平均を下回っている。（図５）

図5　成人における週1回以上のスポーツ実施率



資料：県教育庁「県民の健康・スポーツに関する意識調査」、スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」

⑫　あおもりアスリートネットワーク

本県にゆかりのあるオリンピアンやトップアスリート、指導者等が主体となり、スポーツを通じた様々な社会貢献活動を展開する「あおもりアスリートネットワーク」が2012年11月に設立され、県民のスポーツを推進するための活動や、本県における競技力向上のための活動、青少年の健全育成や健康増進のための活動を行っている。

Ⅳ　地域別情報

県では地域づくりの中心的役割を担う市町村に対して組織的な支援を行うことを目的として、県内６地域に地域県民局を設置しているが、地域ごとに産業や風土に様々な特色がある。

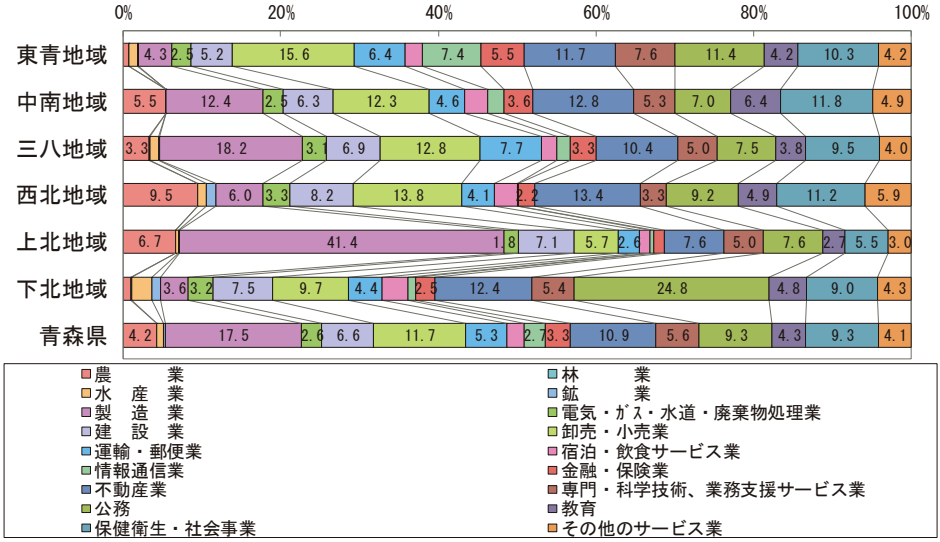
ここでは、地域の産業構造の比較やその特長を紹介するとともに、地域別の主な指標について掲載する。

1　地域別の産業構造

各地域の域内総生産について、経済活動別に構成割合を見ると、上北地域を除いた５地域で第３次産業の割合が７割を超えており、特に、東青地域・下北地域では８割超と高くなっている。**（図１）**

他地域との比較で見ると、東青地域は「卸売・小売業」、中南地域は「保健衛生・社会事業」、三八地域・上北地域は「製造業」、西北地域は「不動産業」、下北地域は「公務」が大きな割合を占めている。

図１　地域別の域内総生産（2016年度）



※　税等を控除していないため、合計は100%を超える。　　資料：県企画政策部「平成28年度市町村民経済計算」

※産業分類

第１次産業：農業、林業、水産業

第２次産業：鉱業、製造業、建設業

第３次産業：電気・ガス・水道・廃棄物処理業、卸売・小売業、
運輸・郵便業、宿泊・飲食サービス業、情報通信業、金融・保険業
不動産業、専門・科学技術、業務支援サービス業、公務、教育、
保健衛生・社会事業、その他のサービス業

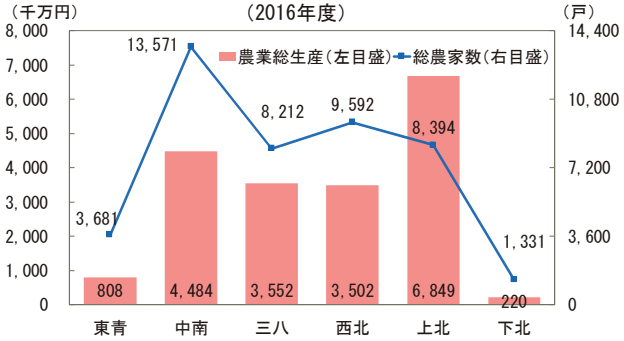
2　産業別に見る地域の特長

(1)　農業の盛んな中南・西北・上北地域

2016 年度の農業総生産は上北地域が最も高い。また、市町村別では、弘前市が 254 億 6,400 万円で最も高く、次いで十和田市の 156 億 9,400 万円となっている。

一方、総農家数では中南地域が最も多く、次いで西北地域、上北地域の順となっている。（図２）

図２　農業総生産及び総農家数
（2016年度）

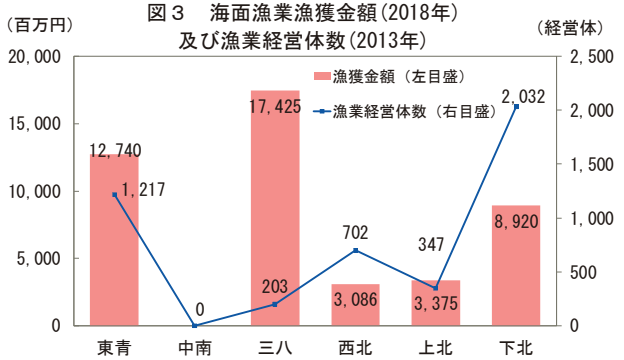


資料：県企画政策部「平成28年度市町村民経済計算」、「2015年農林業センサス」

(2)　水産業の盛んな三八・東青・下北地域

2018 年の海面漁業漁獲金額は、八戸港を擁する三八地域が約 174 億円と最も高くなったが、2017 年の約 194 億円からは約 10.1%の減となった。また、漁業経営体数を見ると、下北地域や東青地域の水準と三八地域の水準の差が特徴的である。（図３）

図３　海面漁業漁獲金額（2018年）
及び漁業経営体数（2013年）

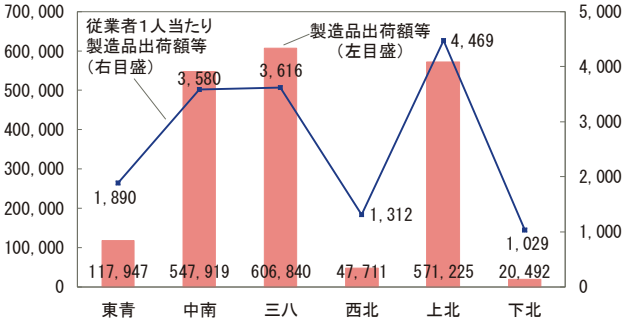


資料：県農林水産部「平成30年青森県海面漁業に関する調査結果書（属地調査年報）」
農林水産省「2013年漁業センサス」　　※三沢市、おいらせ町は三八に含む

(3)　製造業を支える三八・上北地域

2017 年の製造品出荷額等では、ものづくり産業の拠点である三八地域が 6,068 億円と最も高く、県内の約 31.7%を占めている。従業者 1 人当たりの製造品出荷額等では、2016 年と同様に上北地域が最も高い水準となった。**（図４）**

図４　製造品出荷額等（2017年）



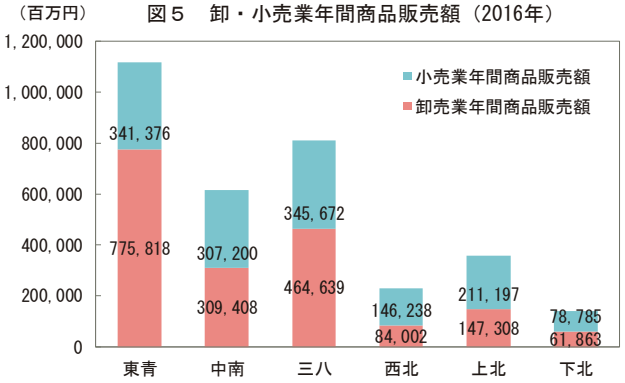
資料：県企画政策部「青森県の工業」
※従業者1人当たり製造品出荷額等は、各地域における製造品出荷額等を従業者数で除して算出。

(4)　商業の中心地・東青地域

2016 年の卸・小売業年間商品販売額をみると、東青地域が最も多く、このうち青森市が占める割合は約 99%となっている。

三八地域に占める八戸市の割合は約 93%、中南地域に占める弘前市の割合は約 80%であり、青森市、八戸市、弘前市に商業機能が集中していることがわかる。**（図５）**

図５　卸・小売業年間商品販売額（2016年）



資料：総務省「経済センサス」

(5)　観光客が多く訪れる三八・中南地域

2018 年の観光客入込数は、県全体としてはおおむね横ばいで推移しており、地域別の比較では三八地域が 2010 年から 9 年連続で最も高い入込数となった。

（図６）

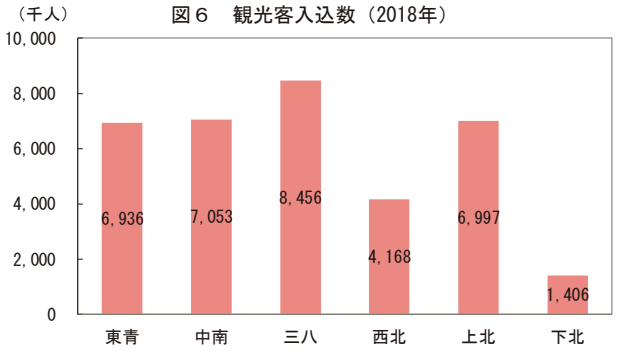


図６　観光客入込数（2018年）

資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

(6)　１人当たり市町村民所得の高い上北地域

2016 年度の市町村民経済計算を見ると、1 人当たり市町村民所得は、六ケ所村、西目屋村、東通村、八戸市、おいらせ町の順に高い値を示しており、これらの市町村を擁する地域が高い値を示す傾向がある。地域別に見ると、上北地域の 3,189 千円が最も高く、三八地域 2,636 千円、東青地域 2,519 千円の順に続いている。

（図７）

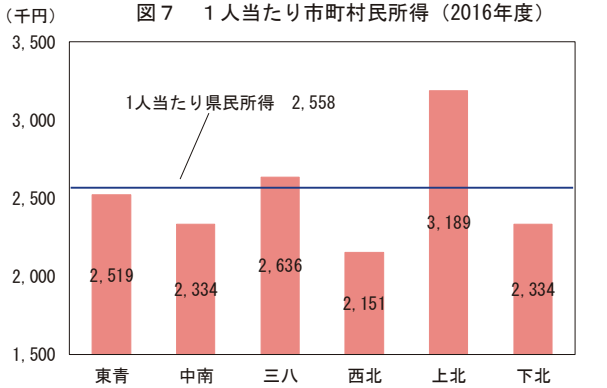


図７　１人当たり市町村民所得（2016年度）

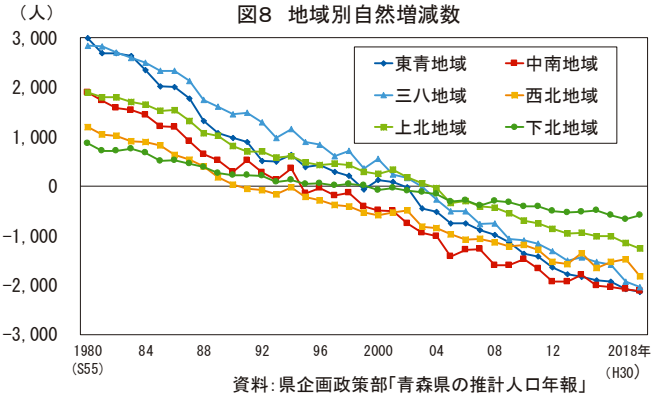
資料：県企画政策部「平成28年度市町村民経済計算」

(7)　各地域の人口動態

＜自然動態＞

各地域の自然動態（出生数－死亡数）を見ると、西北地域が他地域に先駆けて1991 年から自然減となった。全県的に自然減に転じたのは 1999 年であったが、三八地域は 2003 年、上北地域は 2004 年と比較的遅い段階で自然減となり、その後は、全ての地域において自然減が続いている。**（図８）**

図8　地域別自然増減数

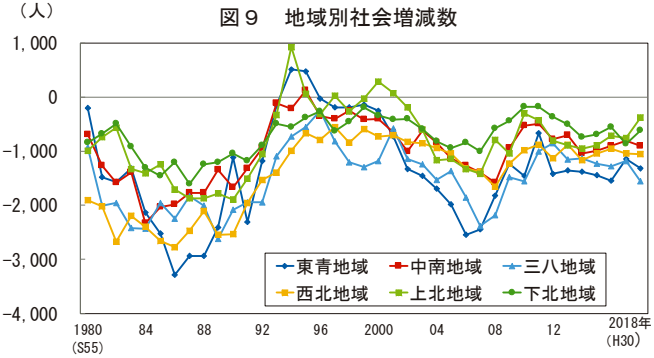


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

(8)　各地域の社会動態

各地域の社会動態（転入者数－転出者数）を見ると、特に東青地域や上北地域では、年ごとに大きな変化が見られ、経済情勢等による影響を大きく受けているものと考えられる。また、三八、西北、下北では 1980 年以降一貫して、2002 年以降は全ての地域において社会減が続いている。**（図９）**

図９　地域別社会増減数



資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

3　地域の現状

東青地域

	人口（人）	世帯数	面積（km²）
青森市	282,061	136,456	824.62
平内町	11,016	4,951	217.09
今別町	2,636	1,419	125.27
蓬田村	2,792	1,155	80.84
外ヶ浜町	6,024	2,892	230.30
合計	304,529	146,873	1,478.12

資料：総務省（人口・世帯数, 2019 年 4 月 1 日現在, 住民基本台帳）
国土地理院（面積, 2018 年 10 月 1 日現在）

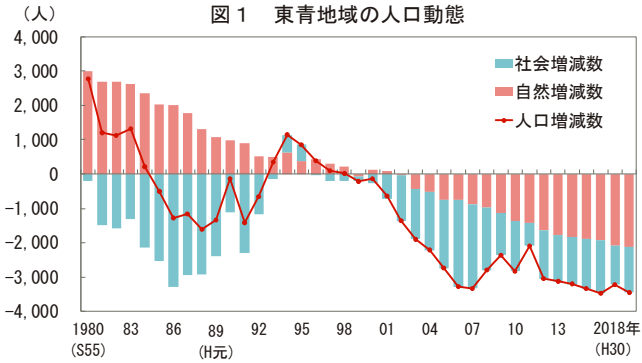
地点 青　森	平均気温 （℃）	最高気温 （℃）	最低気温 （℃）	日照時間 （時間）	降水量 （mm）	降雪量 （cm）
平年値	10.4	27.7	-3.9	1,602.7	1,300.1	669
2019	11.5	35.5	-8.3	1,865.1	1,034.5	546

※平年値：1981～2010 年の累年平均値
資料：気象庁

■人口動態

東青地域の自然動態は、2002 年以降、減少が続いており、減少幅が年々拡大している。社会動態は、2007 年以降は減少幅が縮小する時期もあったが、2013 年以降再び減少幅が拡大傾向にある。**（図１）**

図１　東青地域の人口動態



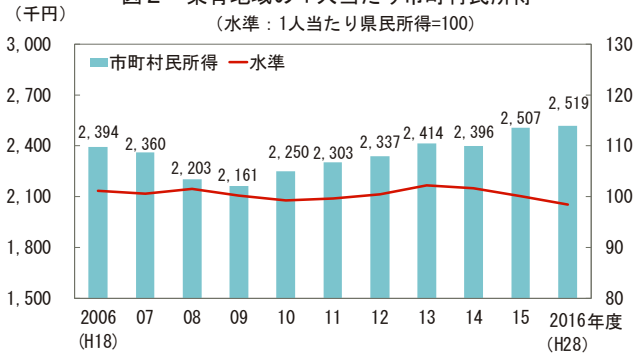
資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

■１人当たり市町村民所得

東青地域の１人当たり市町村民所得は、やや落ち込みが見られる年度もあるものの、2010 年度以降は概ね増加傾向にある。

また、１人当たり県民所得に対する東青地域の１人当たり市町村民所得の水準は、2013 年までは横ばい傾向にあったが、2014 年以降低下している。**（図２）**

図２　東青地域の１人当たり市町村民所得

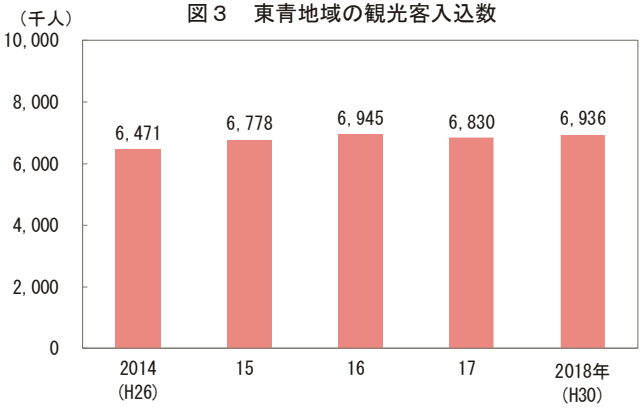


資料：県企画政策部「平成28年度市町村民経済計算」

■観光客入込数

東青地域の観光客入込数は、2014 年以降 600 万人以上で推移しており、2018 年は年間約 694 万人となった。**（図３）**

図３　東青地域の観光客入込数



資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

中南地域

	人口（人）	世帯数	面積（km²）
弘前市	170,452	79,633	524.20
黒石市	33,284	13,750	217.05
平川市	31,282	11,975	346.01
西目屋村	1,367	545	246.02
藤崎町	15,084	6,047	37.29
大鰐町	9,556	4,215	163.43
田舎館村	7,818	2,775	22.35
合計	268,843	118,940	1,556.35

資料：総務省（人口・世帯数, 2019 年 4 月 1 日現在, 住民基本台帳）
国土地理院（面積, 2018 年 10 月 1 日現在）

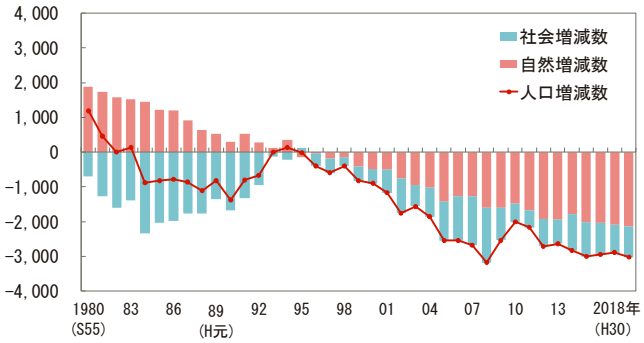
地点 十和田	平均気温 （℃）	最高気温 （℃）	最低気温 （℃）	日照時間 （時間）	降水量 （mm）	降雪量 （cm）
平年値	9.5	26.9	-6.3	1,774.7	983.3	437
2019	10.2	34.2	-15.0	1,994.9	844.5	335

※平年値：1981～2010 年の累年平均値
資料：気象庁

■人口動態

中南地域の自然動態は、1995 年以降、減少が続いており、減少幅も拡大傾向にある。社会動態は 2015 年以降 3 年連続で減少数が縮小していたが、2018 年には拡大に転じた。**（図 1）**

図 1　中南地域の人口動態



資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

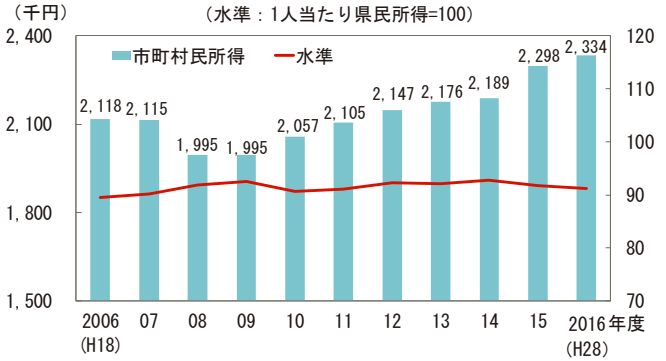
■１人当たり市町村民所得

中南地域の１人当たり市町村民所得は、2009 年度から増加傾向にある。

また、１人当たり県民所得に対する中南地域の１人当たり市町村民所得の水準は、2009 年度以降はほぼ横ばいの状況にある。**（図２）**

図２　中南地域の１人当たり市町村民所得

（水準：1人当たり県民所得=100）

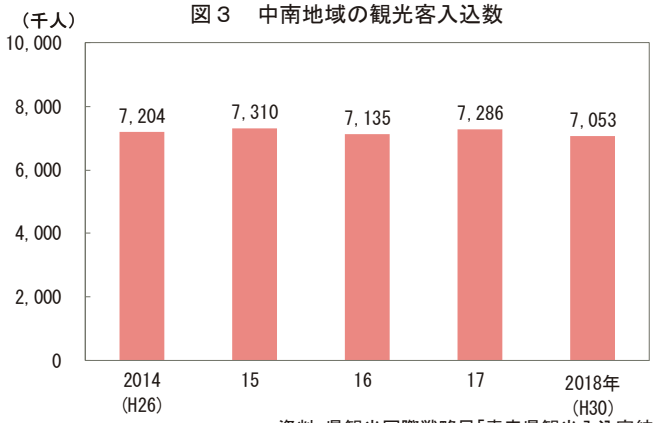


資料：県企画政策部「平成28年度市町村民経済計算」

■観光客入込数

中南地域の観光客入込数は、東日本大震災後大幅に減少していたが、徐々に回復し、現在は横ばい傾向にある。**（図３）**

図３　中南地域の観光客入込数



資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

三八地域

	人口（人）	世帯数	面積（km²）
八戸市	228,622	108,405	305.56
三戸町	10,027	4,283	151.79
五戸町	17,204	7,043	177.67
田子町	5,499	2,168	241.98
南部町	18,101	7,443	153.12
階上町	13,498	5,929	94.00
新郷村	2,458	922	150.77
合　計	295,409	136,193	1,274.89

資料：総務省（人口・世帯数, 2019 年 4 月 1 日現在, 住民基本台帳）
国土地理院（面積, 2018 年 10 月 1 日現在）

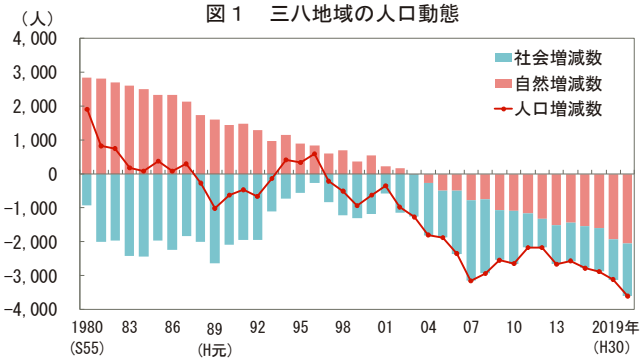
地点 八　戸	平均気温 （℃）	最高気温 （℃）	最低気温 （℃）	日照時間 （時間）	降水量 （mm）	降雪量 （cm）
平年値	10.2	26.5	-4.2	1,860.4	1,025.1	248
2019	11.2	34.8	-10.2	2,032.4	920.0	126

※平年値：1981～2010 年の累年平均値
資料：気象庁

■人口動態

三八地域の自然動態は、2003 年に減少に転じて以降、減少幅が拡大傾向にある。社会動態は、2013 年以降は概ね 1,200 人前後での縮小が続いていたが、2018 年には 1,557 人に減少幅が拡大した。**（図１）**

図１　三八地域の人口動態



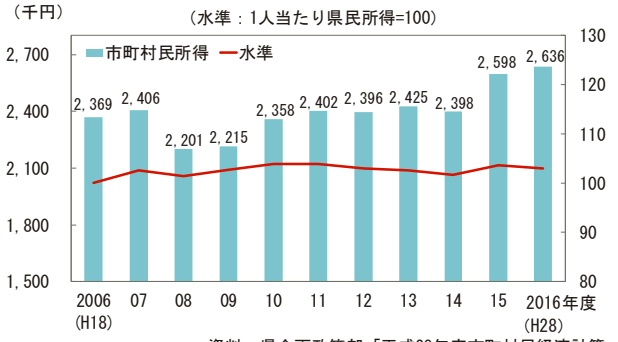
資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

■１人当たり市町村民所得

三八地域の１人当たり市町村民所得は、やや落ち込みが見られる年度もあるものの、ほぼ横ばいで推移している。

また、三八地域の１人当たり市町村民所得水準については、近年減少傾向にあったものの、2015 年度は上昇に転じている。**（図２）**

図２　三八地域の１人当たり市町村民所得

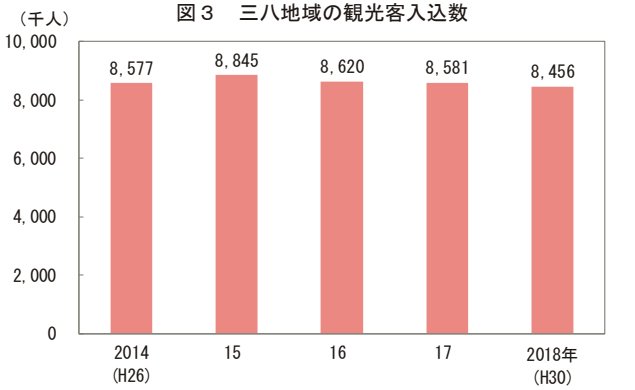


資料：県企画政策部「平成28年度市町村民経済計算」

■観光客入込数

三八地域の観光客入込数は概ね横ばい傾向にあるが、2016 年以降は３年連続で減少し、2018 年は約 846 万人となった。**（図３）**

図３　三八地域の観光客入込数



資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

西北地域

	人口（人）	世帯数	面積（km²）
五所川原市	54,316	25,509	404.20
つがる市	32,343	13,558	253.55
鰺ヶ沢町	9,920	4,616	343.08
深浦町	8,127	3,726	488.90
板柳町	13,591	5,463	41.88
鶴田町	12,870	5,399	46.43
中泊町	11,068	5,124	216.34
合　計	142,235	63,395	1,794.38

資料：総務省（人口・世帯数,2019 年 4 月 1 日現在,住民基本台帳）
国土地理院（面積,2018 年 10 月 1 日現在）

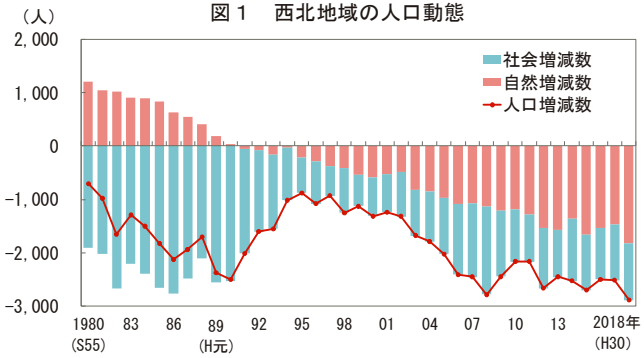
地点 五所川原	平均気温 （℃）	最高気温 （℃）	最低気温 （℃）	日照時間 （時間）	降水量 （mm）	降雪量 （cm）
平年値	10.3	28.1	-4.6	1,549.9	1,223.8	582
2019	11.4	35.3	-8.2	1,878.1	995.0	336

※平年値：1981～2010 年の累年平均値
資料：気象庁

■人口動態

西北地域の自然動態は、県内で最も早い 1991 年に減少に転じており、これ以降、年々減少幅が拡大してきている。社会動態は 2009 年から 2011 年までは減少幅が縮小していたが、2012 年以降の減少幅は概ね横ばいで推移している。**(図１)**

図１　西北地域の人口動態

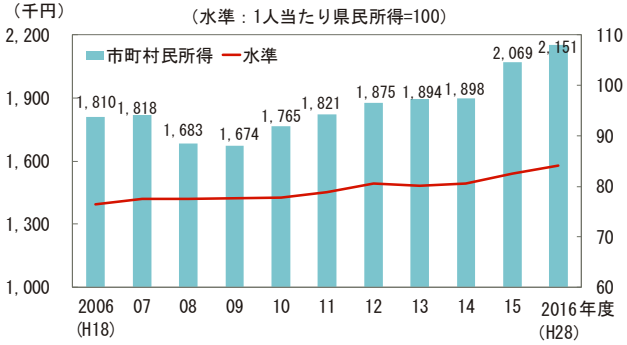


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

■１人当たり市町村民所得

西北地域の１人当たり市町村民所得は、2010 年度から増加傾向にある。１人当たり県民所得を 100 とした時の水準は他地域と比較して低い水準となっているが、近年上昇傾向が見られる。**（図２）**

図２　西北地域の１人当たり市町村民所得

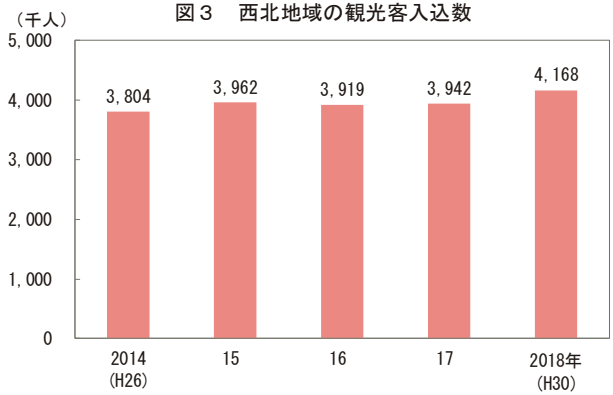


資料：県企画政策部「平成28年度市町村民経済計算」

■観光客入込数

西北地域の観光客入込数は、東日本大震災の影響と思われる大幅な減少以降、おおむね横ばいで推移している。**（図３）**

図３　西北地域の観光客入込数



資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

上北地域

	人口（人）	世帯数	面積（km²）
十和田市	61,210	27,483	725.65
三沢市	39,637	19,289	119.87
野辺地町	13,207	6,486	81.68
七戸町	15,603	6,794	337.23
六戸町	11,030	4,475	83.89
横浜町	4,514	2,085	126.38
東北町	17,597	7,269	326.50
六ヶ所村	10,364	4,885	252.68
おいらせ町	25,107	10,290	71.96
合　計	198,269	89,056	2,125.84

資料：総務省（人口・世帯数, 2019 年 4 月 1 日現在, 住民基本台帳）
国土地理院（面積, 2018 年 10 月 1 日現在）

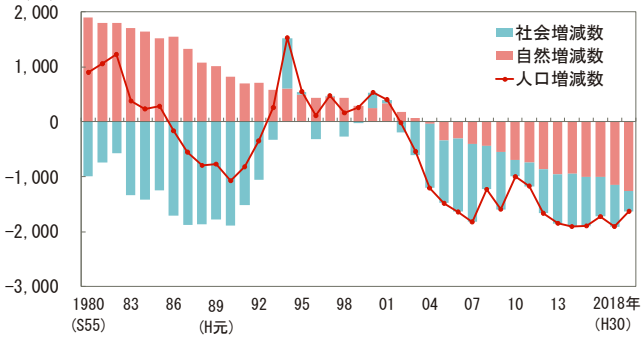
地点 十和田	平均気温 （℃）	最高気温 （℃）	最低気温 （℃）	日照時間 （時間）	降水量 （mm）	降雪量 （cm）
平年値	9.5	26.9	-6.3	1,774.7	983.3	437
2019	10.2	34.2	-15.0	1,994.9	844.5	335

※平年値：1981～2010 年の累年平均値
資料：気象庁

■人口動態

上北地域の自然動態は、2004 年から減少に転じ、年々減少幅が拡大している。社会動態は 2017 年には減少幅が拡大したが、2018 年には減少幅が大きく縮小し、自然増減数と合わせた全体の人口増減数も減少幅が縮小した。**（図１）**

図１　上北地域の人口動態



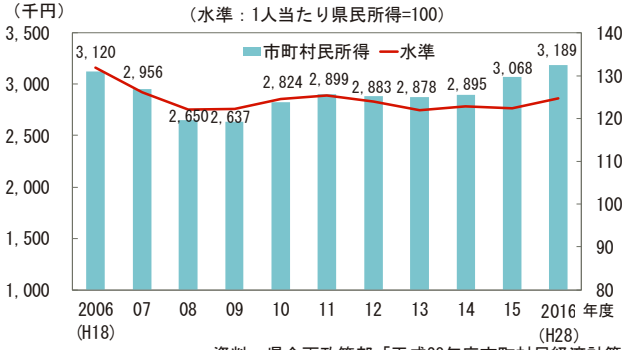
資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

■１人当たり市町村民所得

上北地域の１人当たり市町村民所得は、非鉄金属製造業の製造品出荷額等の増加などにより大きく伸びている。

１人当たり県民所得を 100 とした水準は、2001 年度以降、常に１人当たり県民所得の水準を上回っており、他地域との比較でも最も高い水準にある。**（図２）**

図２　上北地域の１人当たり市町村民所得

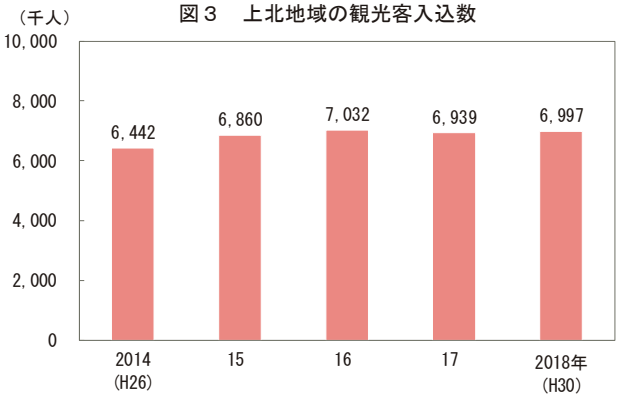


資料：県企画政策部「平成28年度市町村民経済計算」

■観光客入込数

上北地域の観光客入込数は、東日本大震災の影響と見られる減少があったものの、近年は 600 万人台後半から 700 万人台で推移している。**（図３）**

図３　上北地域の観光客入込数



資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

下北地域

	人口（人）	世帯数	面積（km^2）
むつ市	57,186	28,921	864.12
大間町	5,279	2,512	52.1
東通村	6,415	2,836	295.27
風間浦村	1,899	926	69.55
佐井村	2,005	948	135.04
合　計	72,784	36,143	1,416.08

資料：総務省（人口・世帯数, 2019 年 4 月 1 日現在, 住民基本台帳）
国土地理院（面積, 2018 年 10 月 1 日現在）

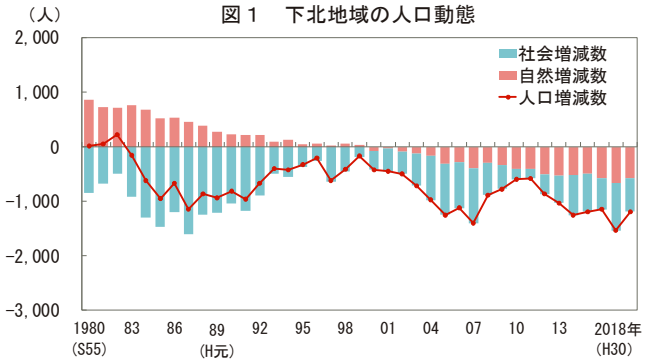
地点 む　つ	平均気温 （℃）	最高気温 （℃）	最低気温 （℃）	日照時間 （時間）	降水量 （mm）	降雪量 （cm）
平年値	9.5	25.7	-5.3	1,608.9	1,342.0	514
2019	10.4	33.0	-11.8	180.7	1,037.0	297

※平年値：1981～2010 年の累年平均値
資料：気象庁

■人口動態

下北地域の自然動態は、2000 年に減少に転じ、年々減少幅が拡大する傾向にある。社会動態は 2017 年には減少幅が拡大したが、2018 年には減少幅が縮小し、自然増減数と合わせた全体の人口増減数も減少幅が縮小した。**（図１）**

図１　下北地域の人口動態

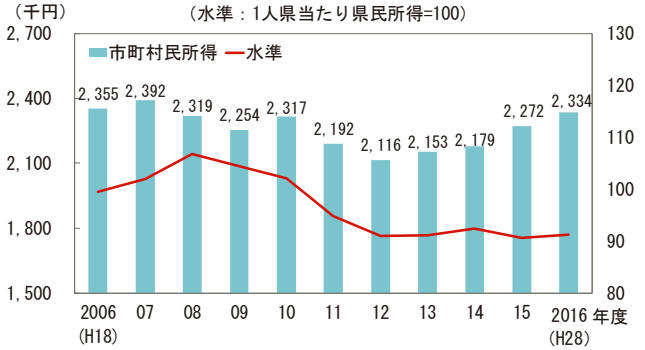


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

■１人当たり市町村民所得

下北地域の１人当たり市町村民所得は、2011 年度と 2012 年度に減少が見られるが、その主な原因は企業所得の減少によるものである。1 人当たり県民所得を 100 とした水準は低下傾向にあるものの、ここ数年は横ばいである。**（図２）**

図２　下北地域の１人当たり市町村民所得

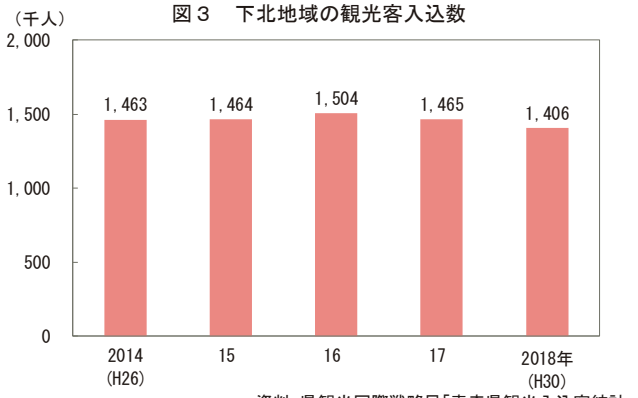


資料：県企画政策部「平成28年度市町村民経済計算」

■観光客入込数

下北地域の観光客入込数は、東日本大震災の影響で大きく落ち込み、2016 年以降は微減傾向にある。**（図３）**

図３　下北地域の観光客入込数



資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

東青地域のここが推し

◆「生姜味噌おでん」でぬぐだまる（青森市）

生姜味噌おでん

「生姜味噌おでん」はすりおろした生姜と味噌を混ぜ合わせたおでん。始まりは冬の厳しい寒さの中、青森駅周辺の屋台のおかみさんが、青函連絡船に乗り込もうとするお客様に少しでも暖まってほしいと考えて作ったのが喜ばれて、広まっていったと言われています。

豊かな海と山の中で育った青森の美味しい食材の味を更に引き立てる生姜味噌は、味はもちろん、体の芯までぬぐだまる（暖まる）こと間違いありません。

青函連絡船は無くなりましたが、今も変わらない青森のソウルフードをぜひ味わってみてください。

◆青の絶景で非日常を満喫！龍飛崎（外ヶ浜町）

津軽半島の周遊スポットで欠かせないのはやはり龍飛崎です。

晴れた日には北海道を見渡せる龍飛崎は、透き通った空の青とどこか奥深さを感じる海の青、そして青を引き立たせる周囲の深緑の自然によって、まさしく青の絶景スポットとなっています。また、岬周辺には日本で唯一の階段国道もあり、周囲を散策して楽しむこともできます。

お食事の際のおススメは何と言っても本まぐろをはじめとする津軽海峡で採れた海の幸。

龍飛崎で「見て」・「歩いて」・「食べて」非日常を堪能しながら心と体をリフレッシュしてみませんか。

龍飛崎

階段国道

中南地域のここが推し

◆小さな物語が今も生きる里「古津軽（こつがる）」

古（いにしえ）の歴史と文化が素朴な風景とともに今も残る中南地域を「古津軽」と呼んでいます。

「古津軽」には小さな物語が今も生きています。豊かな自然との関わり方や、山の神、農の神への感謝と畏怖、鬼や異界との交わり、人と人とのふれあい...。それぞれの里で、語り繋がれた物語は短編小説のようです。

個性豊かな「鳥居の鬼コ」

例えば、岩木川流域には全国的にも珍しい「鳥居の鬼コ」が鎮座している神社が多くみられます。鬼コは、色も形も表情も個性豊か。両肩で鳥居を支えながら、悪霊が集落に入り込まないようにしっかりと睨みをきかせています。

また、夏ともなればどこかで開かれる宵宮、ノスタルジックな温泉街、米どころならではの伝承料理など、古津軽には、古（いにしえ）の歴史と文化が今も残っています。ちょっと不思議で優しい小さな物語をいくつか紡いで、連作の短編集を編む旅へ出かけてみませんか。

◆「津軽塗」を支える国産漆の安定供給をめざして！

青森県を代表する伝統工芸品の津軽塗や国宝・重要文化財建造物の修理等に必要とされる国産漆の需要が高まっていることから、漆資源の確保が課題となっています。そこで、漆資源に関する情報の共有に向けた県や弘前市、津軽塗の関係団体等による連絡会議を設置。優良なウルシ苗木の生産のほか、ウルシに関する理解を促す津軽漆体験ツアーを開催するなど、漆の安定供給を支える「うるしの森づくり」に取り組んでいます。

漆の採取は苗木を植えてから、15 年程度の年月を要します。今後は更にウルシの適正な保護管理方法や漆掻きに必要な技術習得支援など、持続的に漆生産を活気づけ、地域経済の活性化につなげたいと考えています。

三八地域のここが推し

南部氏ゆかりの７つのお城では、「南部お城めぐり」と題して御城印を販売しています。ここでは、当地域の南部氏ゆかりのお城を紹介します。

御城印

◆どんどん発掘が進む「聖寿寺館跡」

聖寿寺館跡は、北東北最大の戦国大名三戸南部氏の最初の居館です。近年、城館中心部分の発掘調査が進み、東北最大の掘立柱建物跡や城門・土橋、珍しい犬形土製品などが確認され、東北地方の戦国史が大きく塗り替えられました。発掘調査現場は毎年５月から 10 月にかけて随時見学可能で、史跡ガイドによる案内も予約制で承っています。史跡聖寿寺館跡案内所では、城館から出土した貴重な品々や解説パネルを展示しています。

聖寿寺館跡全景
（南部町）

◆戦国北奥羽の拠点「三戸城」

三戸城の本丸跡から検出された石垣（三戸町）

三戸城跡は、戦国時代に北奥羽一帯を治めた三戸南部氏が、領国支配の拠点とするために築城されました。城の大手(正面)は西側で、綱門跡→鳩門跡→欅門跡→大門跡を経て頂上の本丸跡に至ります。要所に残る曲輪・土塁・堀など往事を偲ばせる遺構のうち、県内の城跡では特に珍しい石垣が保存されています。天気が良い日には、城跡の頂上から、扇状にそびえる名久井岳や、低地との落差による景色が楽しめます。

◆国内でも珍しい！中世城館の生活を体感できる「根城」

根城は、建武元年(1334 年)に南部師行によって築城されたと伝えられる中世城館です。約 300 年間にわたり南部氏の拠点であった根城は、石垣をもたない土の城です。本丸には、発掘調査成果を元に、安土桃山時代の城の姿が復原されています。復原された馬屋・納屋・工房・鍛冶工房などで城の中の生活を体感できる城は、全国にもほとんどありません。女城主「清心尼」を描いた小説「かたづの！」を片手に、根城を歩いてみませんか？

根城跡全景
（八戸市）

西北地域のここが推し

◆新ご当地グルメ第２弾「メバルちゃんこ鍋」（中泊町）

「中泊メバルの煮付けと刺し身膳」に続いて、新ご当地グルメ第２弾の「メバルちゃんこ鍋」が 2019 年 11 月 10 日にデビューしました。現役関取の「宝富士」と「阿武咲（おうのしょう）」を輩出する中泊町で、相撲にちなんだメニューを冬季限定（11 月～３月）で提供します。

メバルちゃんこ鍋

「メバルちゃんこ鍋」は、「マス席具材」を入れていただくちゃんこ鍋です。スープは津軽海峡メバル醤油スープ、中里産トマト味噌スープ、十三湖しじみ塩スープの３種類で、提供店舗により味が分かれています。

「マス席具材」とは、相撲の観客席「マス席」に見立てた容器に入った中泊町の特産品９品で、**粘り腰**の長いも、タコの**差し身**など、相撲用語に関連したものとなっています。また、食べ方も、力士が土俵入りで塩を撒くように、食べる前には鍋の中にガチンコ塩を撒くのが決まりです。

容器、具材から食べ方まで相撲にこだわった「メバルちゃんこ鍋」、みなさんもぜひお試しください。

※一日の提供数に限りがありますので事前の予約をお勧めします。

◆絶景！大岩と西海岸の夕陽（深浦町　苗代沢）

西海岸の海が一望できる大きな岩で、ＪＲ五能線深浦駅から徒歩５分のところにあります。大岩までは、遊歩道が整備されており、海の間を歩いて渡ることができます。大岩の内部には、大人が１人通れるほどの階段があり、岩上の展望台まで登れば、日本海を 360 度見渡すことができます。

なかでも西海岸の夕陽は深浦町の魅力の一つで、大岩から眺める西海岸の夕陽はまさに絶景です。みなさんもぜひこの機会に訪ねてみてはいかがですか。

道路から見た大岩

大岩周辺から見える夕陽

上北地域のここが推し

◆日本遺産認定のまち（野辺地町）

野辺地町は 2018 年５月に北前船をストーリーとする日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間　～北前船寄港地・船主集落～」に追加認定されました。

江戸時代において、北海道、東北、北陸と西日本を結んだ西回り航路は経済の大動脈であり、この航路を利用した商船は北前船と呼ばれていました。北前船は、米をはじめとした物資の輸送から発展し、船主自身が寄港地で仕入れた多種多様な商品を、別の寄港地で販売する買積方式により利益を上げたことから「動く総合商社」と形容されています。日本海や瀬戸内海沿岸に残る数多くの寄港地・船主集落は、北前船の壮大な世界を今に伝えています。

のへじ祇園まつり

日本遺産のストーリーを構成する野辺地町の北前船関係文化財は、「のへじ祇園まつり」、「浜町の常夜燈」、「旧野村家住宅離れ（行在所）蔵付き」、「末社金刀比羅宮本殿」、「北前船関係資料群」、「北前船船乗りの墓及び擬宝珠」、「北前船が運んだ石造物」、「河原決明の茶がゆ」が挙げられます。

このストーリーを追って、各地を見て回ると思わぬ出会いと発見があるかもしれません。

旧野村家住宅離れ
（行在所）蔵付き

◆幻想的な天王神社のつつじ（七戸町）

春になると、七戸町の市街地にある天王神社の境内では約 500 本のつつじが咲き乱れます。中には樹齢 300 年以上の大木もあり、つつじのトンネル散策や、近接する柏葉公園の展望台からの眺望など、様々な角度から鑑賞することができます。また、期間中は、19 時～21 時までライトアップされ、幻想的な光景を作り出します。

また、同時期には天王つつじまつりが開催され、期間中は 108 段の石段の両脇に絵馬灯篭や短歌が飾られ、境内から流れる琴や笛などの風流な音とともに、咲き誇るつつじを引き立てます。

天王神社の 108 段の階段

境内に立ち並ぶ露店では、あんこの入った団子にだし汁をかけた郷土料理「けいらん」を食すこともできますので、ぜひ一度この絶景をご堪能ください。

◆日本でも貴重なレールバス（七戸町）

旧南部縦貫鉄道七戸駅では、2002 年に廃止となったローカル鉄道「南部縦貫鉄道」の車両キハ１０型などの車両を保管しています。年間を通じて一般公開しており、日本で唯一動態保存している貴重なレールバスを見学できます。また、ゴールデンウィーク中には、「レールバスで遊ぼう」というイベントを行っており、レールバスの体験乗車やグッズ販売をしています。

実際に動いているキハ１０１

◆日本最大級の作付面積を誇る菜の花（横浜町）

横浜町といえば、５月中旬に咲く日本最大級の作付面積を誇る菜の花畑。
1989 年に初めて菜の花作付面積日本一となり、それを機に農業用だけでなく、観賞用としても美しい菜の花を活用した観光が進められました。町の一大イベントである「菜の花フェスティバルｉｎよこはま」をはじめ、

菜の花畑

道の駅よこはま菜の花プラザの「菜の花ドーナツ」や「菜の花ソフトクリーム」など菜の花を活用した商品が開発され、菜の花の町としてＰＲし続けています。

横浜町の菜の花を見るだけでなく、ぜひ一度、味わいに来てみてはいかがでしょう。

菜の花を使った商品

◆おいしい六ヶ所産ブルーベリーを使用した新しいお土産
「ロッカショノースベリーベリーチョコレート」（六ヶ所村）

六ヶ所ごぼうメンチや小川原湖牛コロッケを販売している地元団体「ロッキースタンス」が、六ヶ所村の新しいお土産を開発しました。

ふるさと納税の返礼品でも大人気の六ヶ所産ブルーベリーを、贅沢に使用した一口チョコレートです。ブルーベリーの豊潤な香りと、チョコレートとマッチした濃厚な味わいは、一度食べたら忘れられないおいしさで、子どもから大人まで楽しめる一品です。コンパクトで可愛らしいパッケージのため、手軽に購入できるお土産として大人気です。

ロッキースタンス　ロッキースタンス

ロッカショノースベリーベリーチョコレート

◆不思議な出会いがあるかもしれない「泊の海辺の岩穴」（六ヶ所村）

以前から六ヶ所村の観光地としてＰＲしている「タタミ岩」や「滝の尻大滝」に行く手前の岩穴が、「あるもの」に見えると話題になりました。何に見えるかは、実際に岩穴を見ながら楽しく想像してください。自然の力強さや、不思議な雰囲気を体感できるパワースポットです。

泊の海辺の岩穴

下北地域のここが推し

◆夜に輝く「光のアゲハチョウ」（むつ市）

むつ市には、東北地方随一の夜景があることをご存知ですか？標高 878 メートルの釜臥山に設置された「釜臥山展望台」から眺めるむつ市街の夜景は、宝石をちりばめたチョウのように見え、そのキラキラと輝く様子は、「光のアゲハチョウ」に例えられており、感動的な夜景を楽しむことができます。

2020 年には、むつ市を会場とした「日本夜景サミット」や「全国名月サミット」の開催が予定されており、月と「光のアゲハチョウ」によるコラボレーションの様子は、「インスタ映え」すること間違い無しです。是非、話題のむつ市の「光のアゲハチョウ」をご覧ください。

なお、「釜臥山展望台」の開設は、5 月下旬から 11 月 3 日までとなっています。また、天候により展望台を閉鎖する場合や雲が発生して夜景を見られない場合もありますので、事前にむつ市のホームページ等でご確認ください。

釜臥山から見た「光のアゲハチョウ」

◆下北の偉人　三上剛太郎（佐井村）

1869 年に佐井村の医家である三上家の八代目として生まれた剛太郎は新聞記者となったものの、25 歳の時、父の死をきっかけに医者を志し、佐井村で医業を継ぎました。その後、1904 年の日露戦争開戦に伴い、剛太郎も軍医として従軍しています。

1905 年の中国北東部における戦闘中、剛太郎の包帯所がロシア軍騎兵に包囲され、その時剛太郎が手元にあった三角巾と赤毛布を縫い付けて手製の赤十字旗を作り掲げたところ、騎兵は包囲を解いて立ち去り、多くの負傷兵の命が救われました。

仁愛の医師　三上剛太郎

和風医院の特徴を残す三上剛太郎生家

それから約 60 年後の 1963 年、この手製の旗はスイスのジュネーブで開催された赤十字 100 周年記念国際博覧会で、負傷兵を救った名誉ある「手縫いの赤十字旗」として紹介され、世界の人々の感動を呼びました。現在もこの旗は、仁愛の精神を示すものとして、日本赤十字社青森県支部に展示されています。

帰国後も、佐井村で医業を営んだ剛太郎の生家は、全国的にも貴重な和風医院の特徴を残す建造物として評価され、青森県県重宝に指定されています。館内には、当時、非常に高価だったレントゲンなど、私財を投げ打って地域医療に貢献された三上家の偉跡が伺えます。2019 年に生誕 150 年を迎えた剛太郎の生家を、ぜひ一度ご覧におこしください。

＜特集②＞
「若者・女性から選ばれる青森県」をめざして

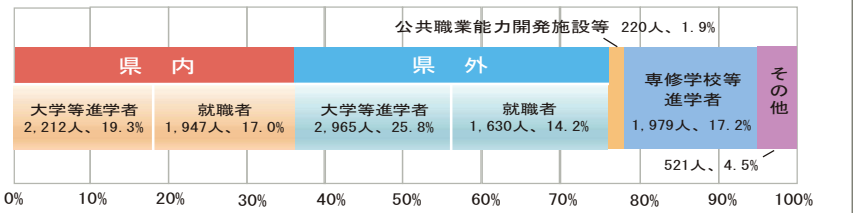
本県の最重要課題である人口減少克服のためには、「若者・女性から選ばれる青森県」を実現する必要があることから、ここでは、若者・女性の県内定着・還流を巡る現状や各種取組を紹介していきます。

1　若者・女性の県内定着・還流を取り巻く状況

（1）高校生の県外転出

高等学校卒業者のうち、県内に進学・就職した割合は30%代半ばであるのに対して、県外に進学・就職した割合は40%であり、就職・進学を問わず、高校卒業時において高校生の多くが県外に転出していることがわかります。（図1）

図1　県内高等学校卒業者の進路状況



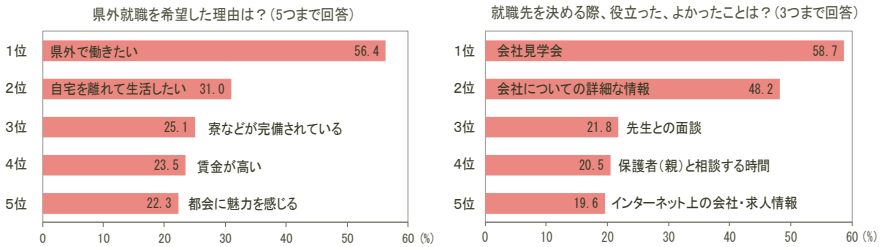
資料：文部科学省「学校基本調査」を基に各項目の割合を算出。

（2）高校生の進路選択に影響を及ぼす要因

県外就職の希望理由は「県外で働きたい」の割合が最も多く、県外給与・福利厚生面の理由を上回っているほか、「自宅を離れて生活したい」や「都会に魅力を感じる」など、県内高校生が首都圏等への憧れから県外就職を希望していることがうかがえます。（図2）

また、高校生が就職先を決める際は、会社見学会や会社に関する詳細な情報を参考にしているだけでなく、先生との面談や保護者との相談を通して自分の就職先を決める傾向があるなど、保護者や教員といった周囲の大人の意向も子どもの進路選択に大いに影響していることが分かります。

図2　県外就職を希望する理由及び就職先を決める際の決め手



資料：県企画政策部「平成30年度高校生の就職に関する意識調査」

（３）大学生の県内定着・還流

県内大学等卒業者の就職状況を見てみると、2019 年は、県内大学等卒業者のうち県内就職内定者は全体の約 3 割に留まっており、2014 年以降、その割合は微減傾向にあります。（表 3）

表3　県内大学等卒業者の県内就職内定率

（各年3月卒、単位：%）

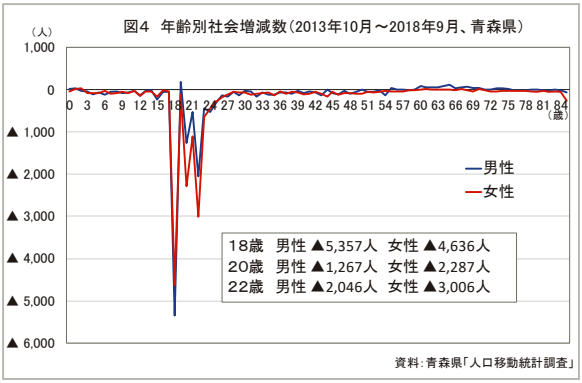
	2014(H26)	15	16	17	18	2019(H31)
県内就職内定率	35.2	35.7	34.1	33.2	34.3	31.4

資料：青森労働局「大学等卒業予定者職業紹介状況」

また、若者の県内定着を進める上では、県外大学等に進学した本県出身学生の還流も必要不可欠ですが、本県出身学生に対して県内企業の情報等を届ける機会やネットワークが不十分な状況にあります。

（４）若者・女性の転出超過

本県は長期にわたり社会減が続き、特に、18 歳、20 歳、22 歳で大幅な転出超過となっていますが、進学や就職を契機とした若者の県外転出が社会減の大きな要因と考えられます。（図 4）



中でも、女性の県外転出は出生数の減少につながるなど、将来に渡っての影響が考えられることから、結婚や出産、子育てを経ても、女性がそれぞれのライフスタイルに合わせて柔軟に働き続けられるよう、各業種における働き方の見直しや職場環境の改善、働きやすい環境づくりに取り組む必要があります。

２　今後の取組の方向性

高校生や大学生が県内就職の魅力に気づき、一つの選択肢として検討するよう、積極的に本県の「しごと」と「暮らし」の情報発信を行うとともに、教員や保護者が県内企業に対する理解を深める機会を提供します。

また、県外に進学した学生の還流を促進するための交流会・セミナーや、女性が安心して働き続けられるための環境整備に向けた取組も進めていきます。

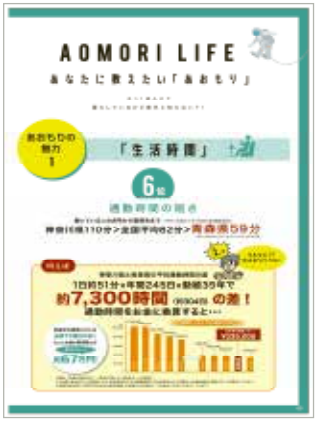
３　若者・女性から選ばれる青森を実現するために～令和２年度の主な取組紹介～

若者・女性から学ぶ場所・働く場所・生きる場所として「選ばれる青森」の実現に向けて、県では、ターゲットに応じてきめ細かに若者・女性の県内定着・還流の取組を進めています。

（１）「暮らし」と「しごと」の情報発信

本県の「暮らし」や「しごと」の魅力を高校生等にＰＲするため、首都圏等と比較した際の暮らしやすさ・働きやすさが伝わるような指標や県内の社会人の働く姿などを掲載した冊子「アオモリドラゲナイ」を作成しています。

この冊子を活用し、県職員が県内高等学校等において直接プロモーションを行っているほか、ホームページやＳＮＳを活用した情報発信にも取り組んでいます。また、冊子を授業等で活用してもらうことを想定し、教員向け解説テキストも作成します。



アオモリドラゲナイの内容→

（２）高校生の県内企業の相互理解の促進

県内企業と高校生が交流する説明会を実施しているほか、実際に高校生が県内企業を訪問の上、企業の魅力について若手社員や採用担当者等に取材し、その内容を他の生徒等に対して発信するなどの取組を進めています。

（３）保護者や教員向けの地元の魅力・企業の理解促進

保護者・教員向けの県内企業説明会を開催しているほか、関係団体等が主催する会議において、「アオモリドラゲナイ」を活用したＰＲ活動を実施し、保護者や教員に対して本県の暮らしや県内企業への理解促進を進めています。

（４）学校内における県内就職支援

県内就職を希望する生徒の進路希望を達成するとともに、県内就職率の向上を図るため、就職者の割合が多い県立高校９校に就職支援員を配置し、生徒の希望に応じた県内求人の開拓や進路相談の対応のほか、県内企業との相互理解促進を目的とした企画等を実施します。

（５）県外大学生等のＵＩＪターンの促進

県外大学生等が県内で就職活動やインターンシップなどに参加する際、県で交通費の一部を助成しているほか、今後社会人となる高校生やＵＩＪターン希望者など幅広い世代を対象に、地元企業の情報や就活関連イベント等を紹介する専用アプリ「シューカツアオモリ」を運用しています。

また、本県出身者が多い首都圏等大学との間でＵＩＪターン就職促進協定を締結し、県内企業のインターンシップ受入支援等に取り組むとともに、本県ならではの暮らしの魅力や本県で働く意義を本県出身学生に伝えるため、首都圏等において本県出身学生と県内若手社会人等が交流する還流促進イベントを実施しています。

↑専用アプリ「シューカツアオモリ」

（６）企業の採用力向上

学生と企業のワークショップを通じて、学生目線・アイデアを踏まえた採用プログラムの作成を支援しているほか、採用力向上を目的とした採用担当者向けのセミナーや企業代表者向けの講演会等を開催しています。

（７）女性が安心して働き続けられる環境づくり

女性活躍を推進する県内事業所の女性社員等で構成される「あおもりなでしこ」を結成し、本県出身の県外女子学生や県内大学等に通う女子学生との交流会や企業見学会、出張講話を実施しています。

また、土木建築業や農林水産業などを始めとする各分野において、結婚や出産、子育てを経ても本人の希望する形で働き続けられるよう、職場の環境改善に向けた意見交換が行われているほか、様々な現場で活躍する女性社員等の姿を発信し、業界のイメージ向上に取り組むなど、女性の県内定着に力を入れています。

4　青森県を選んだ理由は十人十色～リアルな本音から見える青森県の魅力～

青森県が好きでずっと住み続けている人。家庭の事情でＵターンした人。

経緯こそ様々ですが、県内で働き、それぞれの立場から青森県の魅力を感じている人８名に、「暮らす・働く場所として青森県を選んだ理由」と「その選択を振り返っての今の気持ち」について話を聞きました。

金銭的に余裕がなかった我が家は、必ず合格できる国公立に行けという親からの圧力のもと、地元の大学に進学しました。地元に残っている友人や家族と住み慣れた場所で快適な生活を送っているうちに県外へ出たいという考えはなくなり、大学時代に付き合い始めた彼との結婚も考え、地元就職を選びました。都会での暮らしに少し憧れはあるものの、憧れとしてとっておき、旅行にたくさん行きたいと思います。 （20 代、女性）	ふるさとは県外ですが、大学生活を青森市で過ごし、青森ねぶた祭を通して感じた青森市民の「郷土愛」や「ねぶた愛」に感銘を受け、そのまま定住してしまいました。青森県はねぶたに限らず、他県にはない特色ある文化・風土ばかりで、まだまだ可能性に満ち溢れています。伸びしろたっぷりな青森県が日々パワーアップする実感を、実際に住んで・働いて、リアルに感じることができる今の生活に満足しています。 （20 代、男性）
子どもの頃は田舎過ぎて青森が嫌だった。当時ＴＶ局は４つしかなかったし、面白いことはみんな東京だった。でも結婚を機に関東に住んでみると、その喧騒にうんざりした。人が多すぎて目まいがする。そう考えると、青森はちょうどよく田舎。ちょうどよく不便。尖ったオシャレはないけれど、まぁるいダサさが心に優しい、そんな、やや不器用な青森県。生き生き愚痴をこぼしながら、気取らず生きるには適しています。 （30 代、女性）	長男なので、地元に戻って両親を安心させたいという思いもあり、Ｕターン。結婚し、子どもが生まれてからは、自然環境の豊かさを実感しています。生活に車が必要なこと、冬場は雪が多いのが難点です。最近は青森のおもしろい人たちとの出会いに恵まれ、地域のことや暮らし方のことを語り合う日々を送っています。東京にないものも多いですが、帰ってきてよかったと思っています。この土地でできることを考えていきたいですね。 （30 代、男性）
生まれてから大学・就職まで、すべて県内です。就職氷河期の世代で、地方大学から首都圏に就職なんて無理…と思って県内に就職先を選んだというのが正直なところ。ただ、両親がいて、帰るところがあって、居心地の良い青森県を選んだことに後悔はありません。赤飯が甘くないところになんて住みたくない（笑）そして、今度は私自身が娘たちの帰るところになる番です。そのためにも青森県で暮らしていきます。 （40 代、女性）	部活漬けで「遊びたい」と大学は東京、就職は「東京は軽い」と地元へ。「何もない」青森も「地域に熱中」し続けてみると、「地球にキチンと立って」働いている人や県外からの様々な「評価」と出会う…。灯台下暗し。“真の発見の旅とは新しい景色を探すことではなく新しい目でみること”と思い知らされる。不惑過ぎ知命手前で「見ようとしなかった自分」を発見（笑）。自分の人生のため、こんな素敵な地元を活かさない手はない。 （40 代、男性）
自分が生まれ、育った青森県で、家族の近くで仕事をしたい、自分の仕事が青森県の発展のためになるのではないか、ということで地元に就職を選びました。地元で暮らすことは、両親に何かあってもすぐに駆け付け対応することも可能です。 自然が豊かで、レジャーもスポーツも近くで楽しめる、そういった環境も魅力でした。都会の便利さも良いですが時間の有効活用や心のゆとり、それが得られたことが地元就職の一番良かった点ですね。 （50 代、女性）	オヤジにだって大きな夢や野心があった。根拠のない自信と体力だけはみなぎっていた。そんな時は、誰にも気兼ねなく暴れられる都会がいい。そのうち、本当に守りたいものができた。そして、虚飾のない故郷が輝いて見えた。Ｕターン直後は、退屈な所だと後悔したりもしたが、そんなナマクラを厳しい冬と優しい人たちがもう一度鍛え直してくれたのだと思う。自分で言うのも変だけど、青森に帰ったからたくましいオヤジができあがったというお話。 （50 代、男性）

若者・女性から選ばれる青森を実現するために～令和２年度の

高校生

県内就職支援

●就職支援員の配置　●県内就職者との交流等

暮らしやすさの情報発信
『アオモリドラゲナイ』

魅力ある県内企業と
そこで働く若者の紹介
『ミライボイス』

あおもりものづくり企業バンク

県内企業・求人情報紹介サイト
『アオモリジョブ』

大学

●首都圏大学等とのUIJターン
●首都圏・仙台での還流促進
●ＵＩＪターン促進交通費助
●Ｗｅｂ、アプリを活用した

●女子学生向けの取組
（講話、SNS情報拡散、交流会、見学会等）

女子就活・

「しごと」と「暮らし」の情報発信

●Ｗｅｂ、冊子等の啓発ツール制作・発信
●高校生への集中プロモーション

●ふるさと就活大使任命
●企業の採用活動への参画に

県内の企業を知る機会の提供

●求人情報の早期提供　●企業訪問・交流機会提供
●各分野（農林水産業、建設業、医療従事者等）ごとの取組

●「就活カフェ」開催　●企
●インターンシップ拡大（マ
●学内セミナー、保護者会で

地域への自信と誇り・愛着の醸成、変わって

保護者・教員

県内就職するメリットの普及啓発、

●保護者・教師のための県内企業説明会　●県内就職に関する保護者
●保護者に対する県内定着の意識醸成

県　内企業等

採用活動支援、採用力の

●県内企業ＰＲツール制作・発信（企業紹介Ｗｅｂ、冊子等）　●県内
●インターンシップマッチング会、受入研修　●学生目線・

新産業の創出・育成
交流人口の拡大

高品質の県産品づくり
県産品の販路開拓

◆生産の拡大
◆県民の所得向上
◆雇用の場の創出

主な取組～

生

社会人

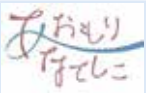
移住・ＵＩＪターン就職の促進

就職連携協定締結
交流会開催
成
県出身者への情報発信

青森県公式就活アプリ
『シューカツアオモリ』

●先輩移住者の生の声発信（web等）
●合同移住フェア等の開催
●テーマ別交流イベントの開催

女性活躍の推進、女性が働きやすい環境づくり



定着サポーターズ『あおもりなでしこ』

●ワーク・ライフ・バランスの推進
●夫婦の対等なパートナーシップ形成促進
●建設業等、働く現場の環境改善

●バス旅、動画ＰＲ
よる交流

業訪問・交流機会提供
ッチング会、企業向け研修）
のＰＲ　●就職情報誌作成

各分野ごとの取組（農林水産業、建設業、医療従事者等）

きている青森県についての理解促進

県内企業への理解を深める機会の提供

向けセミナー　●保護者・教員対象の県内企業見学会、採用担当者との交流会
●県内定着プロモーション支援ツール（教員用）作成

向上、雇用環境の向上

企業説明会等ＰＲ機会提供　●経営者の意識醸成講演会　●採用ノウハウ習得支援
アイデア注入による採用スキル向上支援　●誘致企業の求人活動への同行

県民一人ひとりの豊かな生活を支える「生業」づくり

コラム①　青森を知ってみよ、故郷には添うてみよ

現在、青森県の若者の多くは、県外へ流出してしまっている状況です。2019 年度の高校卒業者の進路状況を見ると、全体の４割が、県外での進学や就職を選択しており、県内を選択する人の割合を上回っています。ふと考えてみると、学生時代、青春を共にした多くの仲間たちも、青森県を出て生活しているという事に気づかされ、若者の県外流出を身をもって感じています。

「地元の青森には仕事がなさそうだ」「東京など県外へ行った方が青森にいるよりも楽しそうだ」。進学や就職を機に青森県外へ向かう人の中には、そのような先入観がある人もいるのではないでしょうか。しかし、県外に出て暮らしている友人の中には、「青森さ帰りたい」と話す人も少なくありません。「せばだば早ぐ帰ってくればいいべな」。地元に残る選択をした側からするとそう思ってしまいますが、一度県外へ出て、そこでの生活基盤が出来てしまえば、よっぽどの決意がない限り、「青森に帰る」という選択はなかなか難しいのかもしれません。「いつか青森に帰りたい」。目に見えてわかるほど若者が流出してしまっている今、その「いつか」という漠然とした未来に、活気ある青森県の姿はあるのでしょうか。

このような状況を抜け出すためには、まず、若者自身が自ら情報を探すことが重要ではないかと思います。例えば、本県の取り組みには、『ミライボイス』や『アオモリジョブ』等の青森県の企業を幅広く伝えているウェブサイトや、『シューカツアオモリ』といった県内の就職関連イベント等を紹介する専用アプリ等があります。このような情報媒体を活用しながら、青森の仕事を知るだけでも視野が広がるはずです。そうすることで、進学を機に青森から離れてしまった人や、地方や東北で暮らしたいという UIJ ターンを希望する人も、「働く場所を青森に」と考えることができるのではないでしょうか。

また、皆さんは、青森県が「女性が活躍しやすい」環境であることを知っていますか。なんと、青森県の県内企業数に占める女性社長比率は 10.6％で、全国第１位なのです（平成 30 年度：帝国データバンク『女性社長比率調査』）。さらに、女性管理職の割合も 20.3％と高く、全国第２位となっています（平成 29 年度：内閣府『男女共同参画白書』）。意外にも、青森県には、女性が輝くためのチャンスがたくさんあるのです。

インターネットや SNS が普及している今、都会と地方の情報格差はほとんど無くなってきており、世の中で何が流行しているのかは、どこにいても確認することができます。最近では、青森県内にも、SNS 映えするようなスポットやお店が増えてきているし、「県内だけでは物足りない！」という人でも、新幹線や飛行機などを使って、いつでも県外へ遊びに行くことができます。

さて、皆さんにとっての青森は、本当に「何もない」場所でしょうか。若者や女性たちにとって、青森が「恋しき故郷」ではなく、「暮らす・働くための場所」になれば、青森県の未来はもっと明るいものになるのではないでしょうか。